

DB2[®] ユニバーサル・データベース
パーソナル・エディション (Linux[®] 版)



概説およびインストール

バージョン 7

DB2[®] ユニバーサル・データベース
パーソナル・エディション (Linux[®] 版)



概説およびインストール

バージョン 7

ご注意!

本書、および本書がサポートする製品をご使用になる前に、95ページの『付録G. 特記事項』にある一般的な情報を必ずお読みください。

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミング、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミング、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典 :	GC09-2972-00 IBM® DB2® Universal Database Personal Edition for Linux® Quick Beginnings Version 7
発 行 :	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当 :	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2000.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1993, 2000. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2000

目次

DB2 ユニバーサル・データベースへようこそ! v 表記上の規則	v
---	---

第1部 DB2 パーソナル・エディション のインストールと構成 1

第1章 インストールの計画	3
メモリ所要量	3
ディスク所要量	3
ハード・ディスク所要量の見積もり	4
ソフトウェア要件	4
製品の要件	4
クライアント - サーバー間の接続の想定シナリ オ	5
以前のバージョンの DB2 からの移行	6

第2章 DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) のインストールおよび構成 7

始める前に	7
Red Hat Linux での DB2 のインストール	8
SuSE Linux での DB2 のインストール	8
Turbo Linux での DB2 のインストール	8
Caldera Open Linux での DB2 のインストー ル	8
インストールの手順	9
ステップ 1. パラメーター値の識別および記 録	9
ステップ 2. CD-ROM のマウント	10
ステップ 3. DB2 製品のインストール	11
インストールの検査	17

第3章 DB2 のインストール後の移行作業 . . . 19

第2部 DB2 ユニバーサル・データベ ースの使用 21

第4章 コマンド行プロセッサーを使用したク ライアント / LAN ベース・サーバー間通信 の構成	23
クライアントでの TCP/IP の構成	23

ステップ 1. パラメーター値の識別および 記録	24
ステップ 2. クライアントの構成	26
ステップ 3. クライアントとサーバーの接 続のテスト	31

第3部 付録および後付け 35

付録A. DB2 製品 (Linux 版) の内容	37
パッケージ	37
製品および選択可能な構成要素	38

付録B. 基本タスクの知識	41
ライセンス登録ツールの開始	41
コントロール・センターの開始	41
コマンド・センターを使用したコマンドの入 力	41
コマンド行プロセッサーを使用したコマンド の入力	44
コマンド行モード	44
対話式入力モード	45
システム管理グループの処理	45

付録C. 各国語サポート (NLS)	47
UNIX オペレーティング・システムでの言語 およびコード・セットのサポート	47

付録D. 命名規則	49
汎用命名規則	49
データベース、データベース別名、およびカ タログ・ノードの命名規則	49
オブジェクトの命名規則	50
ユーザー名、ユーザー ID、グループ名、イン スタンスの命名規則	51
ワークステーション名 (nname) の規則	52
DB2SYSTEM 命名規則	52
パスワード規則	53

付録E. DB2 ユニバーサル・データベース (UNIX 版、Windows 版、および OS/2 版) について	55
---	----

DB2 製品	55	データウェアハウスセンターを使用したウェアハウスの管理	70
DB2 Everywhere	56	管理サーバーについて	70
DB2 ユニバーサル・データベース	56	DB2 アプリケーション開発クライアントを使用したアプリケーション開発	71
ホスト・データベース	58	独自のアプリケーションの実行	72
DB2 コネクト	58		
関連製品	60		
DB2 リレーショナル・コネクト	60		
DB2 ウェアハウス・マネージャー	60		
DB2 OLAP Server	61		
Intelligent Miner	61		
DB2 地理情報エクステンダー	61		
DB2 Net Search エクステンダー	62		
DB2 データ・リンク・マネージャー	62		
Tivoli Enterprise	62		
DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションを使用したデータの処理	62		
DB2 管理ツールを使用したインスタンスおよびデータベースの管理	63		
コントロール・センターを使用したインスタンスおよびデータベース・オブジェクトの管理	63		
サーバーでの通信の管理	67		
DB2 パフォーマンス・モニターを使用したデータベースの監視	68		
Visual Explain を使用しての SQL アクセス・プランの表示	68		
クライアント構成アシスタントを使用したデータベースへの接続の管理	69		
		付録F. DB2 ライブラリーの用法	73
		DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料	73
		DB2 情報	73
		PDF 資料の印刷	85
		印刷資料の注文方法	85
		DB2 オンライン文書	85
		オンライン・ヘルプへのアクセス	85
		オンライン情報の表示	88
		DB2 ウィザードの使用	90
		文書サーバーのセットアップ	92
		オンライン情報の検索	93
		付録G. 特記事項	95
		商標	98
		索引	101
		IBM と連絡をとる	105
		製品情報	105

DB2 ユニバーサル・データベースへようこそ!

『DB2 ユニバーサル・データベース 概説およびインストール』は、DB2 製品をインストールおよび構成する方法に焦点を当てています。

本書概説およびインストールは、DB2 パーソナル・エディションのワークステーションを計画、インストール、およびセットアップする方法について説明しています。パーソナル・エディションのワークステーションのセットアップが完了したら、サンプル・データベースを作成してその中のデータにアクセスします。

DB2 パーソナル・エディションのワークステーションを DB2 クライアントとして使用することになっている場合は、リモート DB2 サーバーへの接続を確立するために必要な手順の説明が役立ちます。



表記上の規則

本書では、次のような強調表示規則を使用しています。

- **太字 (Boldface)** は、フィールド、フォルダー、アイコン、またはメニュー選択の名前など、コマンドやグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) の制御要素を表します。
- *イタリック (Italics)* は、特定の値に置き換える必要のある変数を表します。資料の表題を表したり、語句を強調したりする場合にも使用されています。
- **モノスペース (Monospace)** は、記載されているとおりに入力するテキスト例を表します。



このアイコンは、高速経路のマークです。高速経路は、複数のオプションを選択できる場合に、ご使用の構成に特有の情報を提供します。



このアイコンは、ヒントのマークです。ヒントは、タスクを完了するのに役立つ追加情報です。

DB2 ライブラリーの詳細については、73ページの『付録F. DB2 ライブラリーの使用法』を参照してください。



- ここに記されているインストール方法や推奨されているデフォルトを使用しない場合には、**管理の手引き** および**コマンド解説書**を参照しなければ、インストールと構成を完了することがおそらく難しくなります。
- **Windows 32 ビット オペレーティング・システム** という用語は、Windows 95、Windows 98、Windows NT、または Windows 2000のことを指します。
- **Windows 9x** という用語は、Windows 95 または Windows 98のことを指します。
- **DB2 クライアント** という用語は、DB2 アドミニストレーション・クライアント、DB2 アプリケーション開発クライアント、または DB2 ランタイム・クライアントのことを指します。
- **DB2 ユニバーサル・データベース** という用語は、特に断り書きのない限り、OS/2、UNIX、および Windows 32 ビット・オペレーティング・システムにインストールされた DB2 ユニバーサル・データベースのことを指します。

第1部 DB2 パーソナル・エディションのインストールと構成

第1章 インストールの計画



ハードウェアおよびソフトウェアのすべての要件を満たしているシステムに、ただちに DB2 製品をインストールしたい場合は、7ページの『第2章 DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) のインストールおよび構成』に進んでください。

DB2 ファミリー製品の情報については、55ページの『付録E. DB2 ユニバーサル・データベース (UNIX 版、Windows 版、および OS/2 版) について』を参照してください。

さまざまな環境で使用できる構成要素がたくさんあります。このセクションに述べられている製品と計画に関する情報を参考にして、システムが前提条件を満たしていることを確認し、どの構成要素をインストールすればよいかを決定してください。DB2 の前のバージョンから移行する場合は、インストール前の移行作業を構成する必要もあります。

DB2 製品のインストールを開始する前に、インストールおよび構成を計画しているシステムの要件を見定める必要があります。

メモリー所要量

メモリー所要量は、データベースのサイズによって異なります。平均サイズのデータベースに対応するには、最低 128 MB のメモリーと最低 128 MB のスワップ・スペースを備えるようお勧めします。データベースの日常の操作で必要とされるメモリー所要量については、[管理の手引き](#) を参照してください。

ディスク所要量

このセクションでは、DB2 製品および構成要素をインストールするのに必要なディスクの最小容量について述べます。オペレーティング・システム、アプリケーション開発ツール、および通信製品で必要なディスク所要量については触れません。これらの値については、おのおのの製品の資料を調べてください。ディスク・スペース所要量の見積もりを以下に示します。実際の所要量は、使用する機能によって異なります。

データのスペース所要量については、[管理の手引き](#) を参照してください。

ハード・ディスク所要量の見積もり

特定の構成の場合のディスク所要量を見積もるには、インストールしたい製品と構成要素の推奨の最小ディスク・サイズを加算します。アプリケーション・データと索引用の余裕もとっておきます。

構成要素

オペレーティング・システムに DB2 製品とそれに関連した構成要素をインストールするのに必要とされるディスク・スペースを見積もるには、表1 を使用します。

表1. ディスク所要量の見積もり

	推奨最小ディスク (MB)
DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディション (Linux 版)	
DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) (DB2 GUI ツールを含む)	130 MB
HTML 形式のオンライン・マニュアル (英語)	100 MB
必要とされるディスク・スペースの合計	__ MB

ソフトウェア要件

このセクションでは、DB2 製品を実行するのに必要なソフトウェアについて略述します。

製品の要件

表2 では、DB2 ユニバーサル・データベースに必要なオペレーティング・システムと通信ソフトウェアをリストアップしています。

表2. ソフトウェア要件

製品	ハードウェア要件 / ソフトウェア要件	通信
		Linux
• DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディション	• Linux カーネル 2.2.12 以上 • <i>glibc</i> バージョン 2.1.2 以上 • <i>pdcksh</i> パッケージ • <i>libstdc++</i> バージョン 2.9.0 DB2 をインストールするには、Red Hat Package Manager (<i>rpm</i>) が必要です。	TCP/IP • TCP/IP 接続の場合、追加ソフトウェアは必要ありません。

クライアント - サーバー間の接続の想定シナリオ

次の表は、特定の DB2 クライアントを、特定の DB2 サーバーに接続する際に使用できる通信プロトコルを示しています。DB2 ワークグループ、DB2 エンタープライズ、および DB2 エンタープライズ拡張エディションは、ホストまたは AS/400 クライアント (DRDA AR) からの要求を処理できます。

表 3. クライアント - サーバー間の接続の想定シナリオ

クライアント	サーバー						
	AIX	HP-UX	Linux	OS/2	DYNIX/ptx/ (NUMA-Q)	Solaris	Windows NT/ Windows 2000
AS/400 V4R1	APPC	なし	なし	APPC	なし	APPC	APPC
AS/400 V4R2	APPC TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	APPC TCP/IP
AIX	APPC TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	APPC TCP/IP
HP-UX	APPC TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	APPC TCP/IP
Linux	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP
MVS	APPC	なし	なし	APPC	なし	APPC	APPC
OS/2	APPC IPX/SPX(1),(2) TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC IPX/SPX(1),(2) NetBIOS TCP/IP	TCP/IP	APPC IPX/SPX(1) TCP/IP	APPC IPX/SPX(1) NetBIOS TCP/IP
OS/390	APPC TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	APPC TCP/IP
DYNIX/ptx/ (NUMA-Q)	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP
Silicon Graphics IRIX	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP
SQL/DS	APPC	なし	なし	APPC	なし	APPC	APPC
Solaris	APPC TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	APPC TCP/IP
VSE & VM V5	APPC	なし	なし	APPC	なし	APPC	APPC
VSE V6	APPC	なし	なし	APPC	なし	APPC	APPC
VM V6	APPC TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	TCP/IP	APPC TCP/IP	APPC TCP/IP
Windows 9x	TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	NetBIOS TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	IPX/SPX(1) NPIPE NetBIOS TCP/IP
Windows NT/ Windows 2000	APPC IPX/SPX(1) TCP/IP	TCP/IP	TCP/IP	APPC IPX/SPX(1) NetBIOS TCP/IP	TCP/IP	APPC IPX/SPX(1) TCP/IP	APPC IPX/SPX(1) NPIPE NetBIOS TCP/IP

1. 直接アドレス指定
2. ファイル・サーバー・アドレス指定

以前のバージョンの DB2 からの移行

サポートされる Linux ディストリビューションを実行するワークステーションで DB2 製品を移行する場合、DB2 バージョン 7 の実行には glibc バージョン 2.1.2 以上が必要であることを注意してください (4ページの『ソフトウェア要件』を参照)。ご使用の Linux ディストリビューションにあるこのライブラリーが以前のバージョンである場合、DB2 製品を使用できません。

ワークステーションでインストールを準備するには、既存の Linux ディストリビューションを、glibc ライブラリーの必要なバージョン (またはそれ以上のバージョン) を含む最新のレベルにアップグレードする必要があります。また、glibc ライブラリーだけをアップグレードすることもできます。ご使用のディストリビューションを、glibc ライブラリーの必要なレベルを含む最新のバージョンに更新することをお勧めします。glibc ライブラリーだけを更新すると、オペレーティング・システムに影響を与えるエラーが起きる場合があります。

複数のインスタンスが以前のバージョンの DB2 製品を使用している場合、これらのインスタンスすべてをこの時点で移行する必要はありません。移行されないインスタンスは、引き続き以前のバージョンの DB2 製品を使用します。

インスタンスで移行を準備するには、次のことを確実に実行してください。

- **db2stop** コマンドを入力して、移行するインスタンスをすべて停止する。
- **db2licd -xxx** コマンドを入力して、ライセンス・デーモンを停止する。
- **db2 terminate** コマンドを各ウィンドウに入力して、コマンド行プロセスの DB2 バックエンド・プロセスをすべて停止する。
- **INSTHOME/sqllib/** (**INSTHOME** はインスタンス所有者のホーム・ディレクトリー) にある **db2profile** スクリプトが適切なシェル構文になっていることを確認する。次に例を示します。

```
DB2INSTANCE=db2inst1 //BASH, Bourne, or Korn shell
export DB2INSTANCE
または
set DB2INSTANCE=db2inst1 //C shell
```

第2章 DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) のインストールおよび構成

このセクションでは、Linux ベースのワークステーションでの DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションのインストール方法について説明します。DB2 アドミニストレーション・クライアント、DB2 ランタイム・クライアント、または DB2 アプリケーション開発クライアントをインストールしたい場合は、インストールおよび構成 補足 を参照してください。分散インストールを使用してこの製品を配置する方法については、インストールおよび構成 補足 を参照してください。

以前のバージョンの DB2 製品を移行する場合は、必ず 6 ページの『以前のバージョンの DB2 からの移行』を読んでください。

このセクションでは、次の Linux ディストリビューションについて説明しています。

1. Red Hat Linux
2. SuSE Linux
3. TurboLinux
4. Caldera Open Linux (または、単に Caldera)

他のディストリビューションのインストールに関する詳細は、Web ページ <http://www.ibm.com/software/data/db2/linux> を参照してください。

始める前に

インストールを始める前に、ご使用のシステムが、DB2 製品をインストールするのに必要なメモリー、ハードウェア、およびソフトウェア要件を満たしているか確認してください。詳細については、3 ページの『第1章 インストールの計画』を参照してください。

また、ワークステーションが DB2 製品に対応していることを確かめることも必要です。Linux ディストリビューションによっては、システムに DB2 製品をインストールする前に、特定の作業を実行しなければならないことがあります。以降のセクションでは、特定の Linux ディストリビューションで実行する必要のある作業について説明しています。

Red Hat Linux での DB2 のインストール

DB2 製品を Red Hat Linux バージョン 6.1 以上を実行するワークステーションにインストールするために必要な唯一の準備作業は、Red Hat デフォルト・インストール・システムの一部でない必要な `pdksh` パッケージを追加することです。このパッケージは、Red Hat CD-ROM の `/RedHat/RPMS` ディレクトリーから入手可能です。このパッケージを `rpm` コマンドを使ってインストールする方法については、Linux のマニュアルを参照してください。

SuSE Linux での DB2 のインストール

SuSE バージョン 6.3 のデフォルト・インストール・システムでは、非常に簡単に DB2 製品のインストールを可能にできます。Linux で DB2 製品を実行するには、`glibc 2.1.2` 以上のバージョンが必要です。SuSE インストール・システムにはこのパッケージが付属していますが、名前が異なっています。SuSE ではこのパッケージは、`shlibs` と呼ばれます。DB2 インストーラー・プログラムが必要な `glibc` パッケージの存在を認識できないため、問題が生じ、最終的に失敗します。DB2 CD-ROM には、ダミーの `glibc rpm` が含まれています。このパッケージをインストールすると、インストールはスムーズに行われます。パッケージ名は `glibc-2.2.1-2.rpm` で、DB2 CD-ROM の `/db2/install/dummyrpm` ディレクトリーにあります。このパッケージを `rpm` コマンドを使ってインストールする方法については、Linux のマニュアルを参照してください。

Turbo Linux での DB2 のインストール

Turbo Linux バージョン 6.0 以降を実行しているワークステーションで DB2 製品のインストールを可能にするには、`pdksh` パッケージを追加することが必要です。これはデフォルト・インストール・システムから欠落している唯一の前提条件です。このパッケージは Turbo Linux CD-ROM から入手可能で、`/TurboLinux/RPMS` ディレクトリーにあります。このパッケージを `rpm` コマンドを使ってインストールする方法については、Linux のマニュアルを参照してください。

Caldera Open Linux での DB2 のインストール

Caldera Open Linux バージョン 2.3 のデフォルト・インストール・システムでは、必要な `pdksh` パッケージが欠落しています。この `pdksh` パッケージは Caldera バージョン 2.3 の CD-ROM にありますが、現在はこの DB2 製品とも互換性がありません。代わりとして、Red Hat `pdksh` パッケージを使用することもできます。

Caldera ワークステーションで、Red Hat `pdksh` パッケージを使用する DB2 製品のインストールを可能にするには、`pdksh-5.2.13-3.i386` パッケージ (またはそれ以降のバージョン) を、Red Hat ミラー Web サイト www.redhat.com/download/mirror.html からダウンロードしてください。これは Red Hat パッケージなので、インストールしようとする `glibc` パッケージに対する従属性エラーが出されます。`glibc` パッケージは自動的に Caldera バージョン 2.3 にインストールされています。このエラーはディストリビューション・ベンダー間の命名規則の違いの結果なので、このエラーは無視して構いません。このエラーを回避するには、従属性無効オプション (たとえば、`rpm -i --nodeps` コマンド) を使用してこのパッケージをインストールする必要があります。このパッケージを `rpm` コマンドを使ってインストールする方法については、Linux のマニュアルを参照してください。

インストールの手順

このセクションでは、DB2 インストーラー・プログラムで、または手動でオペレーティング・システムのネイティブ・インストール・ツールを使用して DB2 製品をインストールする方法を説明します。

DB2 ユニバーサル・データベースを Linux システムにインストールするには、以下のステップを実行してください。

ステップ 1. パラメーター値の識別および記録

10ページの表4 は、DB2 製品のインストール、DB2 インスタンスのセットアップ、および管理サーバーの構成に必要な値を判別するのに役立ちます。インストールおよび構成に進む前に、表の「使用値」欄を完成させてください。あるパラメーターにデフォルト値を選択したい場合、そのパラメーターについては「使用値」欄に値を記入する必要はありません。10ページの表4 では、値が必須であるパラメーターは、「DB2 製品名」だけです。他のパラメーターはすべて、デフォルト値があるかまたは任意指定です。

表4. インストールに必要なパラメーター値

DB2 インストール が必要とする情報	デフォルト値	使用値
製品 / 構成要素		
DB2 製品名	なし	
DB2 製品メッセージ	なし	
資料	なし	
DB2 インスタンス		
ユーザー名	db2inst1	
UID	システム生成の UID	
グループ名	db2iadm1	
GID	システム生成の GID	
パスワード	ibmdb2	
TCP/IP サービス名	db2cdb2inst1	
TCP/IP ポート番号	50000	
ユーザー名 (UDF)	db2fenc1	
UID (UDF)	システム生成の UID	
グループ名 (UDF)	db2fadm1	
GID (UDF)	システム生成の GID	
パスワード (UDF)	ibmdb2	
管理サーバー		
ユーザー名 (DAS)	db2as	
UID (DAS)	システム生成の UID	
グループ名 (DAS)	db2asgrp	
GID (DAS)	システム生成の GID	
パスワード (DAS)	ibmdb2	
TCP/IP ポート番号 (DAS)	523	523

ステップ 2. CD-ROM のマウント

DB2 製品をインストールするには、最初に CD-ROM をマウントする必要があります。CD-ROM をマウントし終わったら、インストールを開始できます。

Linux ワークステーションに CD-ROM をマウントするには、以下に示すステップを実行します。

ステップ 1. root 権限を持つユーザーとしてシステムにログオンします。

ステップ 2. CD-ROM をドライブに挿入し、次に示す例のようにマウントします。

```
mount -t iso9660 -o ro /dev/cdrom /cdrom
```

ただし、`/cdrom` は CD-ROM のマウント・ポイントを表します。

ステップ 3. ログアウトします。

ステップ 3. DB2 製品のインストール

このステップでは、DB2 インストーラー・プログラムまたはオペレーティング・システムのネイティブ・インストール・ツールを使用して DB2 製品をインストールする方法を説明します。

DB2 インストーラーを使用した DB2 製品のインストール

DB2 インストーラー・プログラムを実行すると、ときどき表示の問題が発生することがあります。現在の画面を最新表示するには、**Ctrl+L** を押してください。最も可能性のある表示上の問題を回避するには、DB2 製品を仮想コンソール・セッション (ほとんどの Linux ディストリビューションでインストールされる、グラフィカル・インターフェースの外部の端末ウィンドウ) でインストールします。仮想コンソール・セッションに変更するには、**Ctrl+Alt+F1** を押します。グラフィカル・インターフェースに戻るには、**Ctrl+Alt+F7** を押します (特定の Linux ディストリビューションによって異なることがあります。詳細はご使用の Linux のマニュアルを参照してください)。



DB2 インストーラー・プログラムを使用する際には、次のことを認識しておかなければなりません。

- DB2 インストールの **db2setup** コマンドは、**Bash**、**Bourne**、および **Korn** シェルでのみ機能します。その他のシェルはサポートされません。
- インストール時に発生するエラーを記録するために、トレース・ログ `db2setup.trc` を生成することができます。**db2setup** コマンドを次のように実行します。

```
db2setup -d
```

これによって、トレース・ファイル `/tmp/db2setup.trc` が生成されます。

CD-ROM をマウントした後、DB2 インストーラー・プログラムを使用して DB2 製品をインストールしてください。

DB2 製品をインストールするには、以下のステップを実行してください。

ステップ 1. root 権限を持つユーザーとしてシステムにログインします。

ステップ 2. 次のコマンドを入力することによって、CD-ROM がマウントされているディレクトリーに移動します。

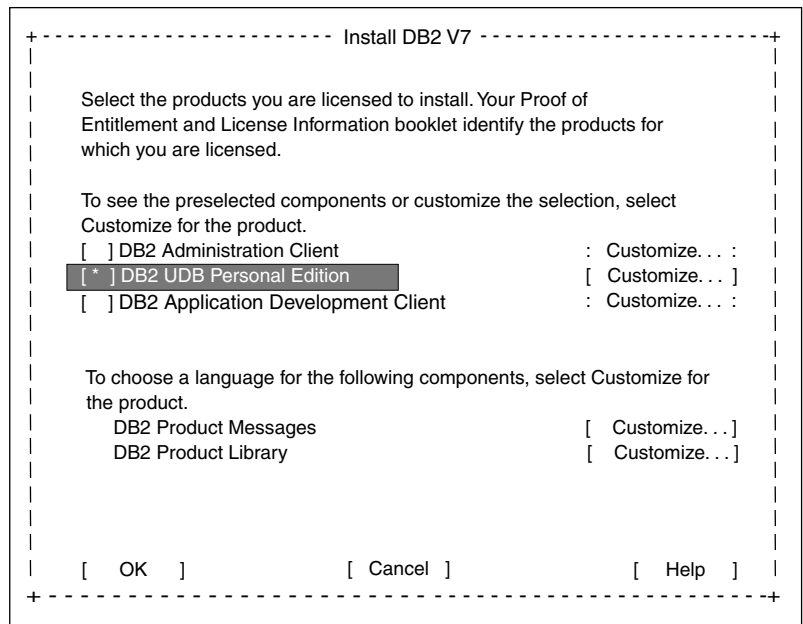
```
cd /cdrom
```

ただし、/cdrom は CD-ROM のマウント・ポイントを表します。

ステップ 3. **./db2setup** コマンドを入力して、DB2 インストーラー・プログラムを開始します。「**DB2 V7 のインストール (Install DB2 V7)**」ウィンドウがオープンします。



DB2 インストール・プログラムは、情報入手のためにシステムを走査するので、開始に多少時間がかかります。



ステップ 4. 「DB2 V7 のインストール (Install DB2 V7)」画面の製品リストから、インストールしたい製品を選択します。

Tab キーを使って、強調表示されるオプションを移動し、**Enter** キーを押して、オプションを選択 / 選択解除します。

インストールしたい DB2 製品の構成要素を表示するには、「**カスタマイズ (Customize)**」を選択します。いつでも、前のウィンドウに戻りたい場合は、「**取り消し (Cancel)**」を選択します。

DB2 製品とその構成要素の選択を終えたら、「**OK**」を選択して、インストールを完了します。

いずれかの DB2 製品または構成要素のインストールの際に詳細情報や援助が必要な場合は、「**ヘルプ (Help)**」を選択してください。

インストールが完了すると、DB2 ソフトウェアは /usr/IBMDB2/V7.1 ディレクトリにインストールされます。DB2 製品を移行する場合は、移行作業を完了するために他のいくつかの作業を実行しなければならないことがあります。詳細については、19ページの『第3章 DB2 のインストール後の移行作業』を参照してください。



DB2 インストールを使用すれば、初期インストールの後に、追加のインスタンスを作成したり、管理サーバーを作成したり、追加の製品または構成要素を追加したりできます。新しいインスタンス、管理サーバー、または追加の DB2 製品および構成要素を作成または追加するには、次のようなコマンドを入力します。

```
/usr/IBMDB2/V7.1/install/db2setup
```

DB2 製品の手動インストール

DB2 製品を Linux にインストールする場合、DB2 インストーラー・プログラムを使用することをお勧めします。DB2 インストーラー・プログラムは、DB2 製品のインストールと構成タスクを自動化する、テキスト・ベースのインストール・ツールです。このユーティリティーを使用したくない場合は、**db2_install** または **rpm** コマンドを使って、DB2 製品を手動でインストールできます。DB2 製品は、Linux 環境でパッケージと呼ばれる、さまざまな機能および構成要素から構成されています。**rpm** コマンドを使用して DB2 製品をインストールする場合、必要な各パッケージと、使用したい任意関数に合わせた各関連パッケージを選択することが必要です。パッケージには、必須のものと同任意選択のものがあります。DB2 製品のインストールでの必須パッケージと任意選択パッケージについては、37ページの『付録A. DB2 製品 (Linux 版) の内容』にリストされています。

たとえば、Linux ワークステーションにコントロール・センターをインストールする場合は、次のコマンドを入力して **db2wcc71-7.1.0-0.i386.rpm** パッケージをインストールする必要があります。

```
rpm -ivh db2wcc71-7.1.0-0.i386.rpm
```

rpm コマンドを使用した DB2 製品のインストールでは、必須パッケージを飛ばしてしまう可能性があるため、エラーが生じやすくなります。DB2 インストーラー・プログラムを使用したくない場合、**db2_install** スクリプトを使って DB2 製品をインストールするようお勧めします。**db2_install** スクリプトは、**rpm** コマンドを使用して DB2 製品に必要なパッケージと、任意のパッケージの両方をインストールします。

db2_install スクリプトを使用した DB2 製品のインストール方法は次のとおりです。

1. root 権限を持つユーザーとしてログインします。
2. **./db2_install** コマンドを入力します。このスクリプトは、CD-ROM からインストールできる製品のリストを戻します。たとえば次のとおりです。

```
Specify one or more of the following keywords,
separated by spaces, to install DB2 products.
DB2.PERS - DB2 Personal Edition
DB2.SDK  - DB2 Application Development Client
DB2.CAE  - DB2 Administration Client
Enter "help" to redisplay the product names, enter "quit" to exit.
*****
```

3. インストールしたい DB2 製品の名前を入力し、**Enter** キーを押します。たとえば、DB2 パーソナル・エディションをインストールする場合、DB2.PERS を入力することによって、**db2_install** スクリプトのプロンプトに応答します。**db2_install** スクリプトは、インストールするために選択した製品に関連するすべての rpm のインストールを開始します。

インストールが完了すると、DB2 ソフトウェアは /usr/IBMDB2/V7.1 ディレクトリにインストールされています。

DB2 (Linux 版) のインストール後の作業: 手動で製品をインストールした後は、インスタンス所有者、管理サーバー、および分離ユーザー定義関数 (UDF) とストアード・プロシージャ用に、グループ ID とユーザー ID を作成する必要があります。これらの ID を一度セットアップすると、インスタンスの作成、管理サーバーの作成、ライセンス・キーのインストール、および DB2 製品ファイルのリンクの作成を行えます。

DB2 インストーラー・プログラムを使って DB2 製品をインストールした場合は、これらの作業を実行する必要はありません。

インスタンス所有者、管理サーバー、および UDF 用のグループ ID とユーザー ID の作成: インスタンス所有者、管理サーバー、および UDF とストアード・プロシージャ用に、グループ ID とユーザー ID を作成する必要があります。既存のユーザー ID またはグループ ID を使用したい場合、このセクションをスキップしてインスタンスの作成に進んでください。

ユーザー名とグループに関してオペレーティング・システムで定められている規則の他に、49ページの『付録D. 命名規則』に説明のある規則にも従わなければなりません。

インスタンス所有者用のグループ ID およびユーザー ID を作成する方法は次のとおりです。

1. root 権限を持つユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して新しいグループを作成します。

```
groupadd -g 999 dbadmin1
```

ここで、999 はグループ ID、dbadmin1 はグループ名を表しています。この新しいグループが、インスタンスの SYSADM グループとなります。

3. 次のコマンドを入力して新しいユーザーを作成します。

```
useradd -u 1004 -g dbadmin1 -m -d /home/db2inst1 db2inst1 -p db2inst1
```

ここで、1004 はユーザー ID、dbadmin1 は前のステップで作成したグループ、/home/db2inst1 はユーザーのホーム・ディレクトリー、db2inst1 はユーザー名とインスタンス名を表します。

作成する各インスタンスごとに、固有のユーザー ID を使用する必要があります。これによって、システム・エラーの発生時により容易にエラー回復を行えます。

グループ ID およびユーザー ID を管理サーバー用に作成するには、インスタンス所有者用に ID を作成したのと同じステップに従います。管理サーバーとインスタンス所有者には異なるユーザー ID を使用しなければなりません。機密保護のため、管理サーバーとインスタンス所有者にも、異なるグループ ID を使用するようお勧めします。

グループ ID およびユーザー ID を UDF とストアード・プロシージャ用に作成するには、インスタンス所有者用に ID を作成したのと同じステップに従います。機密保護のため、UDF とインスタンス所有者には、異なるユーザー ID を使用するようお勧めします。DB2 インスタンスの作成時には、UDF ユーザー ID を提供するように指示されます。

インスタンスの作成: DB2 インスタンスは、データを保管してアプリケーションを実行する環境です。インスタンスの作成には **db2icrt** コマンドを使用します。このコマンドを入力するには、root 権限が必要です。データベース・インスタンスについての詳細は、 [管理の手引き](#) を参照してください。

db2icrt コマンドは、次のパラメーターを指定して実行されます。

```
/usr/IBMDB2/V7.1/instance/db2icrt -a AuthType -u FencedID InstName
```

ここで、

- **-a AuthType** はインスタンスの認証タイプを表します。AuthType は、SERVER、CLIENT、DCS、DCE、SERVER_ENCRYPT、DCS_ENCRYPT、または DCE_SERVER_ENCRYPT のいずれかです。
- **-u FencedID** は、分離ユーザー定義関数 (UDF) および分離ストアード・プロシージャを実行するユーザーの名前です。インスタンスを DB2 クライアント上で作成している場合、このフラグは必要ありません。
- **InstName** はインスタンスの名前を表します。

各インスタンスは、インバウンド通信を受け入れるように構成する必要があります。詳細については、[インストールおよび構成 補足](#) を参照してください。

管理サーバーの作成: 管理サーバーは、DB2 データベースへの接続の構成の自動化を行うツールをサポートするサービスを提供します。また、管理サーバーは、コマンド・センターを使用してサーバー・システムまたはリモート・クライアントから DB2 を管理するツールもサポートします。

管理サーバーを作成するには、**/usr/IBMDB2/V7.1/instance/dasircrt ASName** コマンドを使用します。ここで、*ASName* は作成したい管理サーバーの名前を表します。

管理サーバーの詳細については、[管理の手引き](#) を参照してください。

管理サーバーを作成したら、インバウンド接続を受け入れるように構成してください。詳細については、[インストールおよび構成 補足](#) を参照してください。

ライセンス・キーの更新: Your Proof of Entitlement および *License Information* ブックレットでは、ライセンスのある製品が識別されています。

DB2 製品のライセンス・キーを更新する方法は次のとおりです。

1. root 権限を持つユーザーとしてログインします。
2. DB2 製品のライセンスを次のコマンドで更新します。


```
/usr/IBMdb2/V7.1/adm/db2licm -a filename
```

ここで、filename は、購入した製品に対応するライセンス・ファイルの絶対パス名およびファイル名です。

この製品のライセンス・ファイルの名前は次のとおりです。

db2udbpe.lic

DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディション

たとえば、CD-ROM が /cdrom にマウントされ、ライセンス・ファイルの名前が db2udbpe.lic である場合、コマンドは次のように入力します。

```
/usr/IBMdb2/V7.1/adm/db2licm -a /cdrom/db2/license/db2udbpe.lic
```

DB2 ファイル用リンクの作成: /usr/lib および /usr/include ディレクトリに DB2 ファイルへのリンクを作成するには、root 権限を持つユーザーとしてログインし、**/usr/IBMdb2/V7.1/cfg/db2ln** コマンドを実行します。

DB2 製品の前のバージョンから /usr/lib および /usr/include ディレクトリへの既存のリンクがある場合、**db2ln** コマンドを入力してこのバージョンにリンクを作成することによって自動的に除去されます。DB2 製品の前のバージョンのライブラリーへのリンクを再確立したい場合は、DB2 製品の前のバージョンから **db2rmln** コマンドを実行した後に、DB2 製品の前のバージョンで **db2ln** コマンドを実行する必要があります。リンクは、指定されたシステム上の DB2 製品の 1 つのバージョンにのみ確立できます。

DB2 製品の前のバージョンから移行する場合は、インストールした DB2 製品のこのバージョンで使用するインスタンスをこの時点で移行する必要があります。詳細については、19ページの『第3章 DB2 のインストール後の移行作業』を参照してください。

インストールの検査

システムに SAMPLE サンプル・データベースを作成し、その中のデータにアクセスすることによって、DB2 が正しくインストールされているかどうか検査することができます。SAMPLE データベースを作成して、その中のデータにアクセスするには、以下の手順を実行します。

ステップ 1. システム管理 (SYSADM) 権限をもったユーザーとしてシステムにログオンします。詳しくは、45ページの『システム管理グループの処理』を参照してください。DB2 インストーラー・プログラムが提供するデフォルト値を使用して DB2 をインストールした場合、db2inst1 ユーザーとしてシステムにログオンします。

ステップ 2. **db2sampl** コマンドを入力して、SAMPLE データベースを作成します。

SAMPLE データベースが作成されると、自動的にデータベース別名 SAMPLE としてカタログ化されます。

ステップ 3. **db2start** コマンドを入力して、データベース・マネージャーを開始します。

ステップ 4. 次のコマンドを入力して SAMPLE データベースに接続し、部門 20 で働いているすべての従業員のリストを検索してから、データベース接続をリセットします。

```
db2 connect to sample
db2 "select * from staff where dept = 20"
db2 connect reset
```

DB2 コマンドの入力についての情報は、41ページの『コマンド・センターを使用したコマンドの入力』または 44ページの『コマンド行プロセッサを使用したコマンドの入力』を参照してください。



インストールを検査し終わったら、SAMPLE データベースを除去してディスク容量を空けることができます。SAMPLE データベースを除去するには、**db2 drop database sample** コマンドを入力します。

第3章 DB2 のインストール後の移行作業

インストールが完了したら、**db2imigr** コマンドを実行してインスタンスを移行する必要があります。**db2imigr** コマンドは、インスタンスが移行可能であることを検査してから、バージョン 7 形式への実際の移行を実行します。

管理サーバー・インスタンスを含むインスタンスを DB2 バージョン 7 で使用できる形式に移行するには、次のステップを実行して **db2imigr** コマンドを実行します。

1. root 権限を持つユーザーとしてログインします。
2. **db2imigr** コマンドを入力します。

```
/usr/IBMd2/V7.1/instance/db2imigr [-d] [-a AuthType] [-u fencedID] InstName
```

ここで、

-d 問題判別に使用できるデバッグ・モードを設定します。このパラメーターは任意指定です。

-a AuthType

インスタンスの認証タイプを指定します。有効な認証タイプは、SERVER、CLIENT、および DCS です。-a パラメーターが指定されないと、認証タイプはデフォルト値の SERVER になります。このパラメーターは任意指定です。インスタンスの認証タイプは、インスタンスが所有するすべてのデータベースに適用されます。

注: 認証タイプ DCE はインスタンスの有効な認証タイプですが、このコマンドを使用してこのタイプの認証を指定することはできません。詳細については、*管理の手引き* を参照してください。

-u fencedID

分離ユーザー定義関数 (UDF) およびストアード・プロシージャーを実行するユーザーです。このパラメーターは必須です。

InstName

インスタンス所有者のログイン名です。

すべてのインスタンスをバージョン 7 形式に移行すると、移行プロセスは終了です。

第2部 DB2 ユニバーサル・データベースの使用

第4章 コマンド行プロセッサを使用したクライアント / LAN ベース・サーバー間通信の構成



サーバーと通信するようクライアントを構成するには、使用したい通信プロトコルについてインバウンド要求を受け入れるよう、リモート・サーバーを構成しておく必要があります。デフォルトでは、サーバー上で稼働するすべてのプロトコルを、DB2 インストーラー・プログラムが自動的に検出して構成します。

ネットワークに新たにプロトコルを追加した場合や、サーバーの何らかのデフォルト設定を変更したい場合は、インストールおよび構成 補足 を参照してください。

このセクションでは、コマンド行プロセッサを使用して、ホストまたは AS/400 システム上に存在しない DB2 サーバーと通信するように DB2 クライアントを構成する方法を説明します。

DB2 コマンドの入力については、41ページの『コマンド・センターを使用したコマンドの入力』または 44ページの『コマンド行プロセッサを使用したコマンドの入力』を参照してください。

クライアントでの TCP/IP の構成

このセクションでは、TCP/IP がクライアントおよびサーバー・ワークステーションで機能していることを想定しています。個々のプラットフォームでの通信プロトコル要件の詳細については、4ページの『ソフトウェア要件』を参照してください。特定のクライアントおよびサーバーでサポートされている通信プロトコルの詳細については、5ページの『クライアント - サーバー間の接続の想定シナリオ』を参照してください。

TCP/IP 通信を DB2 クライアントでセットアップするには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. パラメーター値を識別して記録します。

ステップ 2. 次のようにクライアントを構成します。

- a. サーバーのホスト・アドレスを解決します。
- b. services ファイルを更新します。
- c. TCP/IP ノードをカタログ化します。

d. データベースをカタログ化します。

ステップ 3. クライアントとサーバーとの間に確立された接続をテストします。



TCP/IP プロトコルの特性が原因で、別のホストにあるパートナーの障害はただちに TCP/IP に通知されないことがあります。その結果、TCP/IP を使ってリモート DB2 サーバーにアクセスしようとするクライアント・アプリケーションや、それに対応するエージェント (サーバーに存在する) は、場合によってハングしたように見ることがあります。障害が生じて TCP/IP 接続が失敗したとき、DB2 は TCP/IP SO_KEEPALIVE ソケット・オプションを使ってそれを検出します。

TCP/IP 接続において問題が生じた場合、このパラメーターの調整方法について、また、他のよくある TCP/IP 問題について、問題判別の手引きを参照してください。

ステップ 1. パラメーター値の識別および記録

構成ステップを進めながら、次の表内の「使用値」列に記入を済ませます。このプロトコルの構成を始める前に、値の一部を記入することができます。

表 5. TCP/IP クライアントに必要な値

パラメーター	説明	サンプル値	使用値
ホスト名 • ホスト名 (<i>hostname</i>) または • IP アドレス (<i>ip_address</i>)	リモート・サーバー・ワークステーションの <i>hostname</i> または <i>ip_address</i> を使用します。 このパラメーターを解決するには、次のようにします。 • サーバーで hostname コマンドを入力して、 <i>hostname</i> パラメーターを取得します。 • ネットワーク管理者に <i>ip_address</i> を問い合わせるか、 ping hostname コマンドを入力します。	serverhost または 9.21.15.235	

表 5. TCP/IP クライアントに必要な値 (続き)

パラメーター	説明	サンプル値	使用値
サービス名 • 接続サービス名 (svcname) または • ポート番号 / プロ トコル (port_number/tcp)	<p>services ファイルに必要な値。</p> <p>接続サービス名 (svcname) は、クライアントでのポート番号 (port_number) を表す任意の名前です。</p> <p>クライアントのポート番号は、サーバーの /etc/services ファイルにある svcname パラメーターがマップしているポート番号と同じでなければなりません。(svcname パラメーターは、サーバーのデータベース・マネージャー構成ファイルにあります。) この値は、他のアプリケーションで使用されてはならず、services ファイル内で固有でなければなりません。</p> <p>一般に、この値は 1024 以上でなければなりません。</p> <p>サーバーを構成するのに使用される値については、データベース管理者に問い合わせるか、サーバーで db2 get dbm cfg コマンドを入力してください。</p>	<p>db2cdb2inst1</p> <p>50000/tcp</p>	

表 5. TCP/IP クライアントに必要な値 (続き)

パラメーター	説明	サンプル値	使用値
ノード名 (<i>node_name</i>)	接続を確立しようと試みているリモート・サーバー (ノードと呼ばれる) を記述するローカル別名またはニックネーム。任意の名前を選択することができますが、ローカル・ノード・ディレクトリー内のノード名値はそれぞれ固有でなければなりません。	db2node	

ステップ 2. クライアントの構成

以下のステップは、クライアントでこのプロトコルを構成する方法を説明しています。サンプル値を各自のワークシート値に置換してください。

A. サーバーのホスト・アドレスの解決



ユーザーのネットワークにネーム・サーバーがある場合、またはサーバーの IP アドレス (*ip_address*) を直接指定しようとしている場合には、このステップを飛ばして、27ページの『B. services ファイルの更新』に進んでください。

クライアントは、通信を確立しようとするサーバーのアドレスを認識しなければなりません。ネーム・サーバーがネットワークに存在しない場合には、ローカルの *hosts* ファイル内のサーバーの IP アドレス (*ip_address*) にマップするホスト名を直接指定することができます。ご使用のプラットフォームの *hosts* ファイルは、*/etc* ディレクトリーにあります。



ネットワーク情報サービス (NIS) を使用する Linux クライアントをサポートすることを計画していて、ネットワークでネーム・サーバーを使用していない場合には、NIS マスター・サーバーにある *hosts* ファイルを更新しなければなりません。

クライアントの *hosts* ファイルを編集して、サーバーのホスト名のための項目を追加します。たとえば、次のようにします。

```
9.21.15.235    serverhost    # host address for serverhost
```

ここで、

9.21.15.235 リモート DB2 サーバーの *ip_address*。

serverhost リモート DB2 サーバーの *hostname*。

この項目を記述するコメントの開始を示します。



サーバーがクライアントと同じドメインにない場合には、*serverhost.vnet.ibm.com* のような完全に修飾されたドメイン名を提供しなければなりません (*vnet.ibm.com* はドメイン名)。

B. services ファイルの更新



ポート番号 (*port_number*) を使用して TCP/IP ノードをカタログ化しようとしている場合には、このステップを飛ばして、28ページの『C. TCP/IP ノードのカタログ化』に進んでください。

ローカル・テキスト・エディターを使用して、TCP/IP サポートのクライアントの *services* ファイルに、接続サービス名およびポート番号を追加します。ご使用のプラットフォームの *services* ファイルは、*/etc* ディレクトリにあります。たとえば、次のようにします。

```
db2cdb2inst1 50000/tcp # DB2 connection service port for remote server
```

ここで、

db2cdb2inst1

クライアントの */etc/services* ファイルにある、任意の固有接続サービス名。

50000 *svcname* がリモート DB2 サーバーにマップするポート番号。DB2 クライアントおよび DB2 サーバーで同じポート番号を使用する必要があります。

tcp 使用している通信プロトコル。

このエントリーを記述するコメントの開始を示します。

クライアントで使用されるポート番号は、サーバーで使用されるポート番号と一致していなければなりません。



ネットワーク情報サービス (NIS) を使用する Linux クライアントをサポートすることを計画している場合には、NIS マスター・サーバーにある `services` ファイルを更新しなければなりません。

`services` ファイルは、`/etc` ディレクトリーにあります。

C. TCP/IP ノードのカタログ化

リモート・サーバー・ノードを記述するため、クライアントのノード・ディレクトリーに項目を追加しなければなりません。この記入項目では、クライアントがリモート・サーバーにアクセスするとき使用する、別名 `node_name`、`hostname` または `ip_address`、および `svcname` または `port_number` を指定します。

TCP/IP ノードをカタログ化するには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. 有効な DB2 ユーザー ID を使用してシステムにログオンします。詳しくは、49ページの『付録D. 命名規則』を参照してください。



DB2 または DB2 コネクト・サーバー製品がインストールされているシステムヘデータベースを追加する場合は、システム管理 (SYSADM) 権限またはシステム・コントローラー (SYSCTRL) 権限のあるユーザーとしてシステムにログオンします。詳しくは、45ページの『システム管理グループの処理』を参照してください。

この制限を制御するには、`catalog_noauth` データベース・マネージャ構成パラメーターを使用します。詳細については、管理の手引きを参照してください。

ステップ 2. インスタンス環境をセットアップしてから、以下のコマンドを入力して、DB2 コマンド行プロセッサを起動します。

```
. INSTHOME/sql1lib/db2profile (Bash、 Bourne または Korn シェルの場合)
source INSTHOME/sql1lib/db2cshrc (C シェルの場合)
```

ここで、`INSTHOME` はインスタンスのホーム・ディレクトリーを表します。

ステップ 3. 次のコマンドを入力してノードをカタログ化します。

```
db2 "catalog tcpip node node_name remote [hostname|ip_address]
      server [svcname|port_number"
db2 terminate
```

たとえば、サービス名 `db2cdb2inst1` を使用して、`db2node` というノードでリモート・サーバー `serverhost` をカタログ化するには、以下のコマンドを入力します。

```
db2 "catalog tcpip node db2node remote serverhost server db2cdb2inst1"  
db2 terminate
```

たとえば、ポート番号 `50000` を使用して、`db2node` というノードに IP アドレス `9.21.15.235` でリモート・サーバーをカタログ化するには、次のように入力します。

```
db2 "catalog tcpip node db2node remote 9.21.15.235 server 50000"  
db2 terminate
```



catalog node コマンドを使って設定した値を変更する必要がある場合は、以下のステップを実行します。

ステップ 1. 次のように、コマンド行プロセッサで **uncatalog node** コマンドを実行します。

```
db2 "uncatalog node node_name"
```

ステップ 2. 使いたい値でノードを再びカタログ化します。

D. データベースのカタログ化

クライアント・アプリケーションからリモート・データベースにアクセスできるようにするには、サーバー・ノードと、そのサーバーに接続される任意のクライアント・ノードで、そのデータベースをカタログ化しなければなりません。データベースを作成すると、そのデータベースは、データベース名 (`database_name`) と同じデータベース別名 (`database_alias`) を使ってサーバーで自動的にカタログ化されます。データベース・ディレクトリー内の情報に加え、ノード・ディレクトリー内の情報がクライアントで使用されて、リモート・データベースへの接続が設定されます。

データベースをクライアントでカタログ化するには、次に示すステップを実行します。

ステップ 1. 有効な DB2 ユーザー ID を使用してシステムにログオンします。詳しくは、49ページの『付録D. 命名規則』を参照してください。



DB2 または DB2 コネクト・サーバー製品がインストールされているシステムへデータベースを追加する場合は、システム管理 (SYSADM) 権限またはシステム・コントローラー (SYSCTRL) 権限のあるユーザーとしてシステムにログオンします。詳しくは、45ページの『システム管理グループの処理』を参照してください。

この制限を制御するには、`catalog_noauth` データベース・マネージャ構成パラメーターを使用します。詳細については、管理の手引きを参照してください。

ステップ 2. 次に示すワークシートの「使用値」に記入します。

表 6. ワークシート: データベースをカタログ化するためのパラメーター値

パラメーター	説明	サンプル値	使用値
データベース名 (<i>database_name</i>)	リモート・データベースのデータベース別名 (<i>database_alias</i>)。データベースを作成すると、そのデータベースは、データベース名 (<i>database_name</i>) と同じデータベース別名 (<i>database_alias</i>) を使ってサーバーで自動的にカタログ化されます。	sample	
データベース別名 (<i>database_alias</i>)	クライアントでの、リモート・データベース用の任意のローカル・ニックネーム。これを指定しない場合には、デフォルトはデータベース名 (<i>database_name</i>) と同じになります。これは、クライアントからデータベースに接続するときに使用する名前です。	tor1	
ノード名 (<i>node_name</i>)	データベースの常駐場所を記述したノード・ディレクトリー項目の名前。前のステップでノードをカタログ化するのに使用したのと同じ値をノード名 (<i>node_name</i>) に使用します。	db2node	

ステップ 3. インスタンス環境をセットアップしてから、以下のコマンドを入力して、DB2 コマンド行プロセッサを起動します。

```
. INSTHOME/sql1lib/db2profile (Bash、 Bourne または Korn シェルの場合)
source INSTHOME/sql1lib/db2cshrc (C シェルの場合)
```

ここで、*INSTHOME* はインスタンスのホーム・ディレクトリーを表します。

ステップ 4. データベースをカタログ化するには、次のコマンドを入力します。

```
db2 "catalog database database_name as database_alias at node node_name"  
db2 terminate
```

たとえば、ノード *db2node* で、*SAMPLE* という名前のリモート・データベースをカタログ化して、別名 *tor1* を付けるには、次のコマンドを入力します。

```
db2 "catalog database sample as tor1 at node db2node"  
db2 terminate
```



catalog database コマンドを使って設定した値を変更する必要がある場合は、以下のステップを実行します。

ステップ a. **uncatalog database** コマンドを次のように入力します。

```
db2 "uncatalog database database_alias"
```

ステップ b. 使いたい値でデータベースを再びカタログ化します。

ステップ 3. クライアントとサーバーの接続のテスト

通信用クライアントの構成が終了したら、以下のステップを実行して接続をテストしてください。



接続をテストするには、リモート・データベースに接続する必要があります。

ステップ 1. データベース・マネージャーを始動するには、サーバーで **db2start** コマンドを入力します (ブート時に自動的に始動していない場合)。

ステップ 2. 次のようなコマンドを入力し、クライアントをリモート・データベースに接続します。

```
db2 "connect to database_alias user userid using password"
```

userid および *password* の値は、この 2 つが認証されるシステムで有効なものでなければなりません。デフォルトでは、認証は DB2 サーバー用のサーバーや、DB2 コネクト・サーバー用のホストまたは AS/400 マシンで行われます。

接続が正常に完了したら、接続先のデータベースの名前を示したメッセージが表示されます。これで、そのデータベースからデータを取り出すことができます。たとえば、システム・カタログ表にリストされているすべての表名のリストを取り出したい場合、次のコマンドをコマンド・センターまたはコマンド行プロセッサに入力します。

```
"select tablename from syscat.tables"
```

データベース接続の使用が終わったら、 **db2 connect reset** コマンドを入力してデータベース接続を終了します。



これで、DB2 を使用する準備が整いました。より高度な内容のトピックについては、 [管理の手引き](#) および [インストールおよび構成 補足](#) を参照してください。

クライアントとサーバーの接続のトラブルシューティング

接続が失敗した場合、次のような項目を検査します。

サーバー で、

- __ 1. **db2comm** レジストリー値に、値 **tcPIP** が含まれています。



db2set DB2COMM コマンドを入力して、 **db2comm** レジストリーの設定値を検査します。詳細については、 [管理の手引き](#) を参照してください。

- __ 2. **services** ファイルが正常に更新されました。
- __ 3. データベース・マネージャー構成ファイルで、サービス名 (**svccname**) パラメーターが正しく更新されました。
- __ 4. データベースが正しく作成され、カタログ化されました。
- __ 5. データベース・マネージャーが停止されてから開始されました (サーバーで **db2stop** および **db2start** コマンドを入力)。



プロトコルの接続マネージャーに関連して問題が発生すると、警告メッセージが表示され、エラー・メッセージが **db2diag.log** ファイルに記録されます。このファイルは **INSTHOME/sql/lib/db2dump** ディレクトリーにあります。ただし、**INSTHOME** はインスタンス所有者のホーム・ディレクトリーです。

db2diag.log ファイルの詳細については、 [問題判別の手引き](#) を参照してください。

クライアント で、

- 1. 使用されている場合には、`services` および `hosts` ファイルが正しく更新されました。
- 2. ノードが正しいホスト名 (`hostname`) または IP アドレス (`ip_address`) でカタログ化されました。
- 3. ポート番号がホストで使用されるポート番号に一致するか、またはサービス名がそのポート番号にマップされます。
- 4. データベース・ディレクトリー内に指定されているノード名 (`node_name`) は、ノード・ディレクトリー内の正しい項目を指します。
- 5. データベースは、サーバーの データベース別名 (`database_alias`) を使って正しくカタログ化されました。この別名は、データベース名 (`database_name`) としてサーバーでデータベースが作成されたときにクライアントでカタログ化されたものです。

これらの項目を確認した後でまだ接続が失敗する場合は、 [問題判別の手引き](#) を参照してください。

第3部 付録および後付け

付録A. DB2 製品 (Linux 版) の内容

このセクションでは、Linux プラットフォームで使用可能なさまざまな DB2 製品の内容をリストします。

パッケージ

次の DB2 製品パッケージがインストール可能です。

表 7. DB2 構成要素、パッケージまたはファイル・セット

	Linux
DB2 クライアント	db2cliv71-7.1.0-0.i386.rpm
Java サポート (JDBC)	db2jdbc71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 コントロール・センター	db2wcc71-7.1.0-0.i386.rpm
管理サーバー	db2das71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 実行時環境	db2rte71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 サンプル・データベース・ソース	db2smp71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 エンジン	db2engn71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 レプリケーション	db2repl71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 コネクト	db2conn71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 通信サポート - TCP/IP	db2crte71-7.1.0-0.i386.rpm
共通 jar ファイル	db2cj71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 コネクト パーソナル・エディションのライセンス・サポート	db2cplic71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 パーソナル・エディションのライセンス・サポート	db2pelic71-7.1.0-0.i386.rpm
アプリケーション開発ツール	db2adt71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 ADT サンプル・プログラム	db2adts71-7.1.0-0.i386.rpm
コード・ページ変換表 - Unicode サポート	db2cucs71-7.1.0-0.i386.rpm
コード・ページ変換表 - 日本語	db2cnvj71-7.1.0-0.i386.rpm
コード・ページ変換表 - 韓国語	db2cnvk71-7.1.0-0.i386.rpm
コード・ページ変換表 - 中国語 (簡体字)	db2cnvc71-7.1.0-0.i386.rpm
コード・ページ変換表 - 中国語 (繁体字)	db2cnvt71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 製品メッセージ - %L ^{1, 2}	db2ms%L71-7.1.0-0.i386.rpm
DB2 製品資料 (HTML) - %L ¹	db2ht%L71-7.1.0-0.i386.rpm

表7. DB2 構成要素、パッケージまたはファイル・セット (続き)

	Linux
注:	
1. ファイル・セット名の %L はロケール名を表します。ロケールごとに別々のファイル・セットがあります。DB2 製品メッセージと文書はいくつかのロケールで翻訳されていますが、すべてのメッセージ・カタログまたは資料がすべてのロケールで翻訳されているわけではありません。DB2 がサポートしているロケールの完全なリストについては、 管理の手引き を参照してください。	
2. 英語のメッセージが常にインストールされます。	

製品および選択可能な構成要素

表8 は、インストール可能な DB2 製品と選択可能構成要素をリストしています。

表8. DB2 製品の構成要素

製品 / 構成要素の説明	DB2 クライアント	DB2 UDB パーソナル・ エディション	DB2 コネクト
DB2 クライアント	✓✓	✓✓	✓✓
Java サポート (JDBC)	✓	✓	✓
DB2 コントロール・センターのサポート	..	✓	✓
管理サーバー	なし	✓✓	✓✓
DB2 実行時環境	なし	✓✓	✓✓
DB2 サンプル・データベース・ソース	なし	✓✓	なし
DB2 エンジン	なし	✓✓	なし
DB2 コネクト	なし	なし	✓✓
ローカル・ウェアハウス・コントロール・データベース	なし	✓	なし
DB2 データ・ソースの分散結合	なし	✓	なし
Web 用情報カタログ	o	o	o
通信サポート (TCP/IP 用)	なし	✓✓	✓✓
コード・ページ変換表 - 日本語	なし	✓	✓
コード・ページ変換表 - 韓国語	なし	✓	✓
コード・ページ変換表 - 中国語 (簡体字)	なし	✓	✓
コード・ページ変換表 - 中国語 (繁体字)	なし	✓	✓
DB2 レプリケーション	なし	✓	✓

表 8. DB2 製品の構成要素 (続き)

製品 / 構成要素の説明	DB2 クライアント	DB2 UDB パーソナル・ エディション	DB2 コネクト
DB2 製品メッセージ (非英語) ¹	なし	o	o
DB2 製品ライブラリー (HTML) ¹	なし	o	o
<p> ✓✓ これは、インストールする必要がある必須構成要素です。 ✓ これはデフォルトでインストールされる推奨構成要素です。この構成要素は、インストールしないことも選択できます。 o これはデフォルトでインストールされない任意指定の構成要素です。これをインストールしたい場合、選択しなければなりません。 .. この構成要素は、DB2 アドミニストレーション・クライアントでのみ使用可能です。 注: ロケールごとに、DB2 製品メッセージと DB2 製品ライブラリーの構成要素は異なります。 </p>			

付録B. 基本タスクの知識

このセクションでは、この製品を効果的に使用するために知っておく必要のある、基本タスクを説明します。



実行したいタスクを説明するセクションに進んでください。

- 『ライセンス登録ツールの開始』
 - 『コントロール・センターの開始』
 - 『コマンド・センターを使用したコマンドの入力』
 - 44ページの『コマンド行プロセッサを使用したコマンドの入力』
 - 45ページの『システム管理グループの処理』
-

ライセンス登録ツールの開始

DB2 ライセンス登録は、DB2 インストーラー・プログラムを使用して CD-ROM から DB2 をインストールした場合、自動的に行われます。Linux オペレーティング・システムの固有のインストール・ツールを使って DB2 をインストールした場合、DB2 を登録するには **db2licm** コマンドを入力する必要があります。詳しくはコマンド解説書を参照してください。

コントロール・センターの開始

このコマンドを使ってコントロール・センターを立ち上げるには、前提条件として Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.1.8 がなければなりません。コントロール・センターをシステム上で実行できるようにセットアップする方法についての詳細は、インストールおよび構成 補足 を参照してください。

コントロール・センターを起動するには、コマンド・プロンプトで **db2cc** コマンドを入力します。

コマンド・センターを使用したコマンドの入力

このセクションでは、コマンド・センターを使用したコマンドの入力方法を説明します。コマンド・センターは、以下のことを実行するために対話式ウィンドウを提供します。

- SQL ステートメント、DB2 コマンド、オペレーティング・システム・コマンドの実行。
- SQL ステートメントおよび DB2 コマンドの実行結果を、結果ウィンドウに表示する。結果をスクロールしたり、出力をファイルに保管したりすることができます。
- 一連の SQL ステートメントおよび DB2 コマンドのスクリプト・ファイルへの保管。そのスクリプトをスケジューリングして、ジョブとして実行できます。保管したスクリプトを変更した場合、保管したスクリプトに従属するすべてのジョブは、その変更された動作を継承します。
- スクリプト・ファイルの再呼び出しおよび実行。
- 実行プランおよび SQL ステートメントに関連した統計の実行前の参照。対話式ウィンドウで Visual Explain を起動すると表示されます。
- メイン・ツールバーからデータベース管理ツールへのクイック・アクセスの実現。
- スクリプト・センターを通して、システムが認識するすべてのコマンド・スクリプトの表示。コマンド・スクリプトごとに要約情報が付いています。

コマンド・センターは次の方法で開始できます。

- コントロール・センターで、「**コマンド・センター (Command Center)**」アイコンをクリックします。
- **db2ctr** コマンドを入力します。



このコマンドを使ってコマンド・センターを立ち上げるには、前提条件として Java Runtime Environment (JRE) レベルがなければなりません。

コマンド・センターには、コマンドを入力するための大きな入力域があります。入力したコマンドを実行するには、「**実行 (Execution)**」アイコン (ギヤのアイコン) をクリックするか、**CTRL+Enter** を押してください。



コマンド・センターでは、db2 接頭部を付けてコマンドを入力する必要はありません。DB2 コマンドを入力するだけです。たとえば、次のようにします。

```
list database directory
```

オペレーティング・システム・コマンドを入力するには、オペレーティング・システム・コマンドの前に感嘆符 (!) を付けます。たとえば、次のようにします。

```
!ls
```

複数のコマンドを入力するときは、各コマンドの終わりに終了文字を付けなければなりません。次いで **Enter** を押して改行し、次のコマンドを入力し始めます。デフォルトの終了文字はセミコロン (;) です。異なる終了文字を指定するには、メニュー・ツールバーの「**ツールの設定 (Tools Settings)**」アイコンをクリックします。

たとえば、次のコマンドを入力することによって、SAMPLE というデータベースに接続し、すべてのシステム表をリストできます。

```
connect to sample;  
list tables for system
```

「**実行 (Execution)**」アイコンをクリックする (または **CTRL+Enter** を押す) と、コマンド・センターは「**結果 (Results)**」ウィンドウに切り替え、コマンドを処理していく方法を知らせます。

入力したコマンドを再呼び出しするには、「**スクリプト (Script)**」タブを選択し、ドロップダウン・ボックスをクリックして、コマンドを選択します。

コマンドをスクリプトとして保管するには、メニュー・バーから「**スクリプト (Script)**」→「**別名保管 (Save as)**」を選択します。詳細については、「**ヘルプ (Help)**」押しボタンをクリックするか、または **F1** キーを押してください。



頻繁に使用する SQL ステートメントまたは DB2 コマンドをスクリプトとして保管したい場合、メイン・ツールバーから「**スクリプト・センター (Script Center)**」アイコンをクリックしてください。詳細については、「**ヘルプ (Help)**」押しボタンをクリックするか、または **F1** キーを押してください。

コマンド行プロセッサを使用したコマンドの入力

コマンド行プロセッサを使用して、DB2 コマンド、SQL ステートメント、およびオペレーティング・システム・コマンドを入力できます。以下のモードで作動できます。

コマンド行モード

どのシェル・プロンプトでも実行できます。DB2 コマンドと SQL ステートメントの前に `db2` 接頭辞を付けて、これらのコマンドやステートメントを入力することができます。オペレーティング・システムのコマンドは、通常のシェル・プロンプトと同じように直接入力されます。

対話式入力モード

DB2 コマンドに (コマンド行モードで) 使用する `db2` 接頭部は、前もって入力されています。オペレーティング・システム・コマンド、DB2 コマンド、または SQL ステートメントを入力して、その出力を表示できます。

ファイル入力モード

ファイルに保管されているコマンドを処理します。ファイル入力モードの詳細については、[コマンド解説書](#) を参照してください。

コマンド行モード

どのコマンド・ウィンドウからでも DB2 コマンドを入力することは可能です。コマンド行モードを介してコマンドを入力している場合、`db2` 接頭部を含める必要があります。たとえば、次のようにします。

```
db2 list database directory
```



使用しているオペレーティング・システムで特別な意味を持つ文字が DB2 コマンドに含まれている場合、正確に実行するためにはコマンドを引用符で囲む必要があります。

たとえば、オペレーティング・システムで `*` という文字が特別な意味を持っていても、次のコマンドは `employee` という表からすべての情報を取り出します。

```
db2 "select * from employee"
```

1 行に収まらない長いコマンドを入力する必要がある場合、行継続文字 `¥` を使用します。行の終わりに達した後、**Enter** キーを押して次の行へのコマンドの入力を続行してください。たとえば、次のようにします。

```
db2 select empno, function, firstname, lastname, birthdate, from ¥
db2 (cont.) => employee where function='service' and ¥
db2 (cont.) => firstname='Lily' order by empno desc
```

対話式入力モード

対話式入力モードでコマンド行プロセッサを起動するには、コマンド行プロセッサから **db2** コマンドを入力します。

対話式入力モードに入ったなら、プロンプトは次のようになります。

```
db2 =>
```

対話式入力モードでは、db2 接頭部を付けて DB2 コマンドを入力する必要はありません。DB2 コマンドを入力するだけです。たとえば、次のようにします。

```
db2 => list database directory
```

対話モードでオペレーティング・システム・コマンドを入力するには、オペレーティング・システム・コマンドの前に感嘆符 (!) を付けます。たとえば、次のようにします。

```
db2 => !ls
```

1 行に収まらない長いコマンドを入力する必要がある場合、行継続文字 ¥ を使用します。行の終わりに達した後、**Enter** キーを押して次の行へのコマンドの入力を続行してください。たとえば、次のようにします。

```
db2 => select empno, function, firstname, lastname, birthdate, from ¥
db2 (cont.) => employee where function='service' and ¥
db2 (cont.) => firstname='Lily' order by empno desc
```

対話式入力モードを終了するには、**quit** または **terminate** コマンドを入力します。

CLP の使用に関する詳細は、[コマンド解説書](#) を参照してください。

システム管理グループの処理

デフォルトでは、システム管理 (SYSADM) 権限は、インスタンスの所有者のユーザー名の 1 次グループに属する有効な DB2 ユーザー名すべてに付与されます。

デフォルトの SYSADM 設定を変更する方法、およびこの権限を異なるユーザーまたはユーザーの集合に割り当てる方法については、[管理の手引き](#) を参照してください。

付録C. 各国語サポート (NLS)



この機能は、DB2 パーソナル・エディションをリモート・サーバーにアクセスするクライアントとして使用する場合に適用されます。

このセクションでは、サポートされているロケールおよびコード・セットについての情報を含め、DB2 が提供する各国語サポート (NLS) に関する情報が記載されています。NLS を使用するアプリケーション開発の詳細については、[アプリケーション開発の手引き](#) を参照してください。

UNIX オペレーティング・システムでの言語およびコード・セットのサポート

DB2 では多数のコード・セットとロケールがサポートされており、関係する諸言語にメッセージを翻訳する必要がありません。ロケールがサポートされているということは、そのロケールでデータベースを作成および使用できるということです。翻訳されたメッセージが DB2 に組み込まれていない場合に、表示されるパネルやメッセージが別の言語であるということもあります。サポートされているロケールの完全なリストについては、[管理の手引き](#) を参照してください。

異なる言語環境で操作する場合、以下の手順を実行してください。

ステップ 1. 使用したい言語の該当するメッセージ・オプションがインストールされていることを確認する。

ステップ 2. `LANG` 環境変数を、希望するロケールに設定する。

たとえば、DB2 (Linux 版) で `fr_FR` メッセージを使用するには、`fr_FR` メッセージ・オプションをインストールし、`LANG` 環境変数を `fr_FR` に設定する必要があります。

選択メッセージ・カタログ・ファイル・セットは、ターゲット・ワークステーションの次のディレクトリーにあります。

```
/usr/IBMDB2/V7.1/msg/%L
```

ここで、`%L` はメッセージ・カタログのロケール名と同じです。

付録D. 命名規則



情報が必要な命名規則を説明するセクションに進んでください。

- 『汎用命名規則』
 - 『データベース、データベース別名、およびカタログ・ノードの命名規則』
 - 50ページの『オブジェクトの命名規則』
 - 51ページの『ユーザー名、ユーザー ID、グループ名、インスタンスの命名規則』
 - 53ページの『パスワード規則』
 - 52ページの『DB2SYSTEM 命名規則』
 - 52ページの『ワークステーション名 (nname) の規則』
-

汎用命名規則

特に指定がない限り、名前には以下の文字を含めることができます。

- A~Z。名前に使用されるとき、多くの場合 A~Z は小文字から大文字に変換されます。
- 0~9
- @、#、\$、および _ (下線)

特に指定がない限り、名前は以下の文字で始めなければなりません。

- A~Z
- @、#、および \$

表、視点、列、索引、または許可 ID の名前には、SQL 予約語を使用しないでください。SQL 予約語のリストについては、SQL 解説書を参照してください。

データベース、データベース別名、およびカタログ・ノードの命名規則

データベース名 は、データベース・マネージャー内でデータベースを識別するために割り当てられる名前です。データベース別名 は、リモート・データベースに付けられるシノニムです。データベース別名はシステム・データベース・ディレクトリー内で固有でなければなりません。このシステム・データベー

ス・ディレクトリーにすべての別名が保管されます。カタログ・ノード名は、ノード・ディレクトリー内の項目に割り当てられる識別名です。ノード・ディレクトリー内の各項目は、ネットワーク上のコンピューターの別名です。同じサーバーに複数の名前が割り当てられることから発生する可能性のある混乱を避けるため、サーバーのネットワーク名として同じカタログ・ノード名を使用することをお勧めします。

データベース、データベース別名、またはカタログ・ノード名を命名する際には、49ページの『汎用命名規則』を参照してください。また、名前に指定できる桁数は1～8文字のみです。



問題が生じそうな状況を未然に防ぐために、クライアントからホスト・データベースにリモート接続をする場合は、データベース名に特殊文字 @、#、および \$ を使用しないでください。さらに、これらの特殊文字はすべてのキーボードに共通ではないので、他の国でデータベースを使用することを計画している場合にも使用しないでください。

オブジェクトの命名規則

データベース・オブジェクトには、以下のものが含まれます。

- 表
- 視点
- 列
- 索引
- ユーザー定義関数 (UDF)
- ユーザー定義タイプ (UDT)
- トリガー
- 別名
- 表スペース
- スキーマ

データベース・オブジェクトを命名する際には、49ページの『汎用命名規則』を参照してください。

加えて、指定する名前には、以下の条件があります。

- 指定できる桁数は1～18文字です。ただし、次の名前は例外です。

- 表名 (視点名、要約表名、別名、および関連名)。128 文字まで指定できません。
- 列名。30 文字まで指定できます。
- スキーマ名。30 文字まで指定できます。
- SQL 予約語 (SQL 解説書 のリストを参照) は指定できません。

区切り識別子を使用することによって、上記の命名規則に違反するオブジェクトを作成することは可能ですが、そのオブジェクトを使おうとするとエラーになってしまいます。

たとえば、名前に + または - 記号が含まれている列を作成し、その列を索引の列として使おうとすると、索引の表を認識する段階で問題が起きてしまいます。データベースの使用と操作で生じかねない問題を未然に防ぐために、これらの規則を違反しない ようにしてください。

ユーザー名、ユーザー ID、グループ名、インスタンスの命名規則

ユーザー名 またはユーザー ID は、個々のユーザーに割り当てられた識別子です。ユーザー、グループ、またはインスタンスに名前を付ける際には、49ページの『汎用命名規則』を参照してください。

一般的な命名規則への追加事項は次のとおりです。

- OS/2 上のユーザー ID に入る文字数は、1~8 文字です。数値で始めたり \$ 記号で終わったりすることはできません。
- UNIX 上のユーザー名に入る文字数は、1~8 文字です。
- Windows 上のユーザー名に入る文字数は、1~30 文字です。Windows NT および Windows 2000 オペレーティング・システムでの制限は、現在 20 文字です。
- グループ名およびインスタンス名に入る文字数は、1~8 文字です。
- 以下の名前にすることはできません。
 - USERS
 - ADMINS
 - GUESTS
 - PUBLIC
 - LOCAL
- 名前を次のもので始めることはできません。
 - IBM

- SQL
- SYS
- アクセント符号を含めることはできません。
- 一般に、ユーザー、グループ、またはインスタンスに名前を付ける際には次のことに注意してください。

OS/2 大文字を使用します。

UNIX 小文字を使用します。

Windows 32 ビット オペレーティング・システム

大文字小文字のどちらでも構いません。

ワークステーション名 (nname) の規則

ワークステーション名は、データベース・サーバーまたはクライアント、またはローカル・ワークステーションに存在する DB2 パーソナル・エディションの NetBIOS 名を指定します。この名前は、データベース・マネージャー 構成ファイルに保管されます。ワークステーション名は、*workstation nname* となります。ワークステーションに命名する際には、49ページの『汎用命名規則』を参照してください。

加えて、指定する名前には、以下の条件があります。

- 指定できる桁数は 1～8 文字です。
- &、#、および @ を含めることはできません。
- ネットワーク内で必ず固有にします。

DB2SYSTEM 命名規則

DB2 は *DB2SYSTEM* 名を使用して、ネットワーク内の物理的な DB2 マシン、システム、またはワークステーションを識別します。UNIX では、*DB2SYSTEM* 名は TCP/IP ホスト名をデフォルトの名前とします。OS/2 では、インストール中に *DB2SYSTEM* 名を指定する必要があります。Windows 32 ビット オペレーティング・システムでは、*DB2SYSTEM* 名を指定する必要はありません。*DB2* セットアップ・プログラムが Windows コンピューター名を検出し、その名前を *DB2SYSTEM* に割り当てます。

DB2SYSTEM 名を作成する際には、49ページの『汎用命名規則』を参照してください。

加えて、指定する名前には、以下の条件があります。

- ネットワーク内で必ず固有にします。
- 指定できる桁数は最大で 21 文字までです。

パスワード規則

パスワードの決定時には、次の規則を考慮に入れてください。

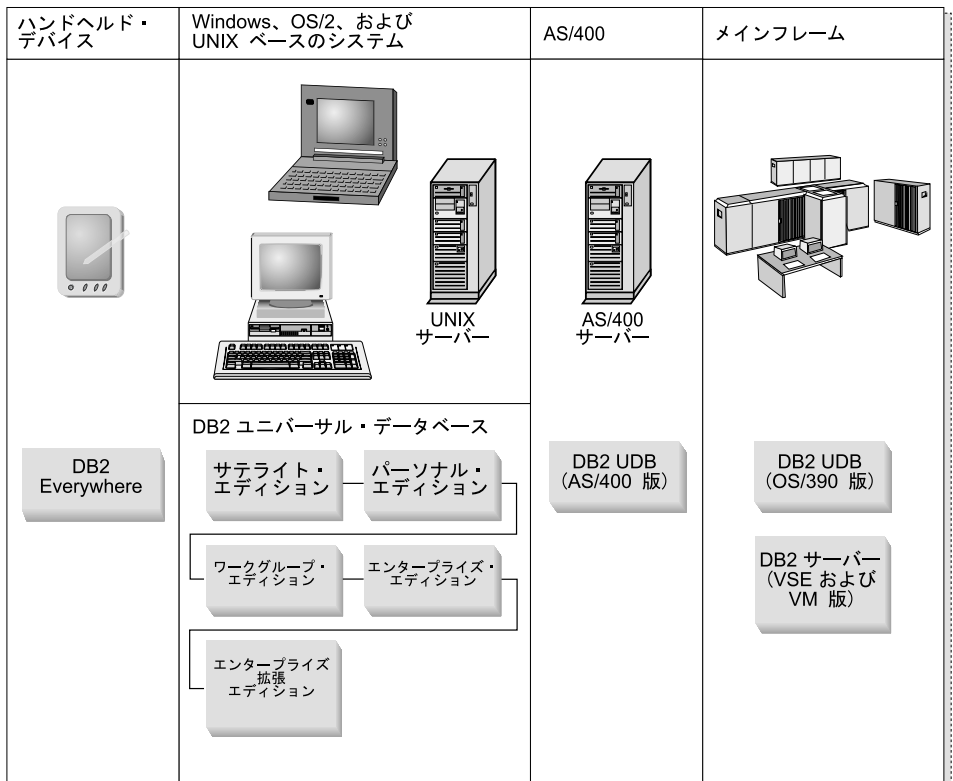
OS/2 最大 14 文字です。

UNIX 最大 8 文字です。

Windows 32 ビット オペレーティング・システム
最大 14 文字です。

付録E. DB2 ユニバーサル・データベース (UNIX 版、Windows 版、および OS/2 版) について

DB2 製品ファミリーは、小さなハンドヘルド・デバイスから最大級の IBM メインフレームにいたるまで、広範囲のコンピューティング・デバイスに対応したリレーショナル・データベース・ソリューションです。



DB2 製品

DB2 という名前は、さまざまなプラットフォームで稼働するリレーショナル・データベース製品に使用されます。

DB2 Everywhere

DB2 Everywhere は、携帯情報端末 (PDA)、スマートフォン、およびハンドヘルド・パーソナル・コンピューター (HPC) などのモバイル・デバイスで稼働する、非常に小さなフットプリント・データベースです。各モバイル・デバイスには、エンタープライズ・データベースからのデータのサブセットが保管され、継続的にデータベースに接続していなくても使用できます。

中間層サーバーで稼働する DB2 Everywhere 同期サーバーは、モバイル・デバイスとエンタープライズ・データベース間で両方向にデータを複製します。たとえば、積み込みドック内の各作業者は、OS/390 上の在庫データベースと周期的に同期する PDA を携帯することができます。

DB2 ユニバーサル・データベース

次の表は、各プラットフォームで使用可能な製品を示します。

表 9. DB2 ユニバーサル・データベース・プラットフォーム

エディション	Windows 95/98	Windows NT/ Windows 2000	OS/2	Linux	AIX	HP-UX	Solaris	DYNIX/ptx/ (NUMA-Q)
サテライト	✓	✓						
パーソナル	✓	✓	✓	✓				
ワークグループ		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
エンタープライズ		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
エンタープライズ拡張		✓			✓	✓	✓	✓

サテライト・エディション

DB2 ユニバーサル・データベース サテライト・エディションは、Windows 32 ビットのオペレーティング・システムで使用可能な、単一ユーザー、小規模フットプリント・バージョンの DB2 です。ラップトップ・コンピューターなど、臨時に接続されるリモート・システム用に設計されています。

通常、DB2 ユニバーサル・データベース サテライト・エディションの多くのインスタンスは、同じサーバーによって中央で管理されます。

パーソナル・エディション

DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションは、完全 DB2 製品の単一ユーザー・バージョンです。次のものが含まれます。

- オブジェクト・リレーショナル・データベース・エンジン
- OLAP Starter Kit によるビジネス・インテリジェンス・サポート
- データ・ウェアハウス・センターによるデータ・ウェアハウス・サポート
- DB2 エクステンダーによるマルチメディア・サポート

- DB2 DataJoiner によるさまざまな IBM データ・ソースへのアクセス
- DataPropagator による複製サポート
- DB2 コントロール・センターによる拡張 GUI 管理ツール
- アプリケーション開発クライアント
- 管理クライアント

ワークグループ・エディション

DB2 ユニバーサル・データベース ワークグループ・エディションは、小規模の企業または部門の環境用に設計された、DB2 製品のマルチユーザー・バージョンです。パーソナル・エディションのすべての機能に加え、次の機能が含まれます。

- リモート・クライアントが DB2 ワークグループ・サーバーでデータにアクセスし、管理作業を実行するための機能
- Net.Data による Web アクセス
- IBM WebSphere Application Server

エンタープライズ・エディション

DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ・エディションは、多数のユーザーが使用する大規模なデータベース用に設計されています。ワークグループ・エディションのすべての機能に加え、次の機能が含まれます。

- 無制限の数のクライアント接続用のライセンス
- 無制限の数の Web クライアント接続用のライセンス
- ホスト DB2 システムへの DRDA アクセスが可能な、DB2 コネクト・サポート

エンタープライズ拡張エディション

DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディションは、最大級のデータベース用に設計されています。ウェアハウス、データ・マイニング、および大規模な OLTP アプリケーション用の、非常に大きなデータベースをスケーリングするのに理想的です。エンタープライズ・エディションのすべての機能に加え、次の機能が含まれます。

- サーバーのクラスターのサポート

開発者エディション

DB2 アプリケーションの開発者は、2 つの特殊なエディションの DB2 を使用できます。

- DB2 パーソナル開発者エディション
- DB2 ユニバーサル開発者エディション

DB2 パーソナル開発者エディションは、ソフトウェア開発者が DB2 パーソナル・エディションのデータベース用のアプリケーションを作成するのに役立つツールを提供します。DB2 パーソナル開発者エディションには、DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションのすべての機能に加え、次の機能が含まれます。

- DB2 コネクト パーソナル・エディションの機能
- VisualAge for Java Entry Edition

DB2 ユニバーサル開発者エディションは、クライアント / サーバー・アプリケーションを開発するためのツールを提供します。DB2 ユニバーサル開発者エディションには、DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ・エディションのすべての機能に加え、次の機能が含まれます。

- VisualAge for Java Professional Edition

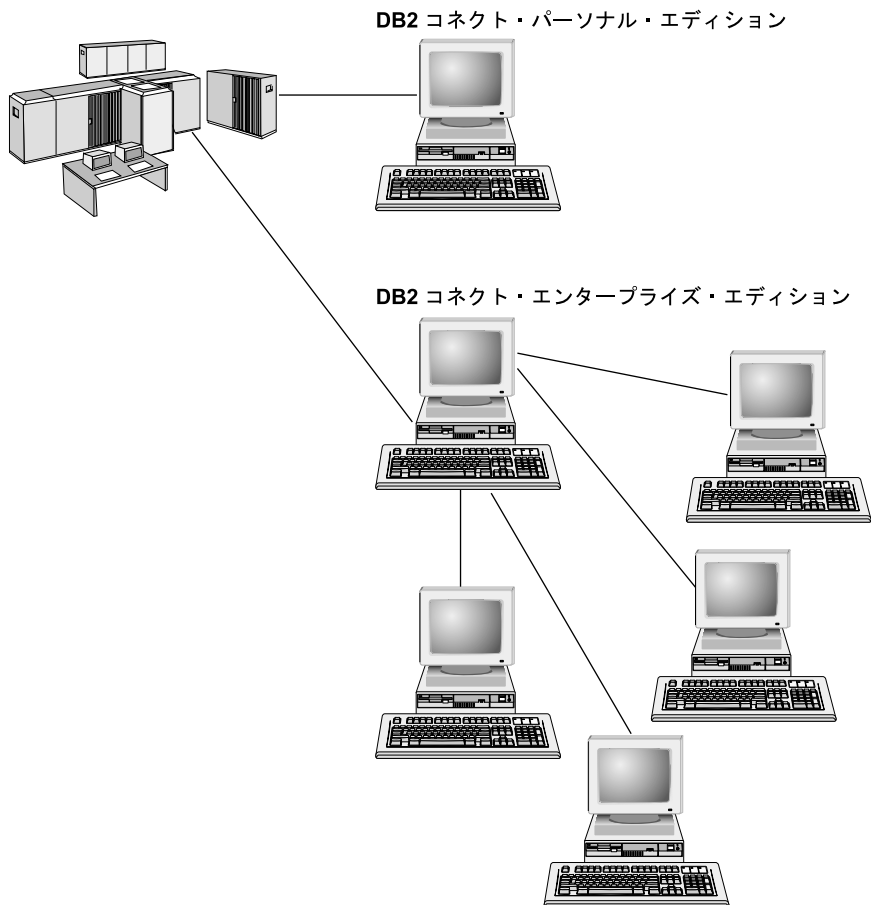
ホスト・データベース

IBM 中型システムおよびメインフレーム・システムでは、以下の DB2 製品が使用可能です。

- DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版)
- DB2 サーバー (VSE および VM 版)
- DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版) V6.1

DB2 コネクト

DB2 コネクトは、Windows、OS/2、および UNIX ベースのプラットフォームからメインフレームおよび中型機データベースへの接続性を提供します。OS/400、VSE、VM、MVS、および OS/390 上の DB2 データベースに接続できます。また、分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) に準拠している、IBM 以外のデータベースにも接続できます。



以下の DB2 コネクト製品が使用可能です。

- パーソナル・エディション
- エンタープライズ・エディション
- アンリミテッド・エディション

DB2 コネクト パーソナル・エディション は、単一の Windows、OS/2、または Linux オペレーティング・システムから、メインフレーム・データベースおよび中型機データベースへの直接接続を提供します。各クライアントがホストに直接接続する 2 層環境用に設計されています。DB2 コネクト パーソナル・エディションは、データへのインバウンド・クライアント要求を受け入れません。

DB2 コネクト エンタープライズ・エディション は、ゲートウェイ・サーバーにインストールされ、LAN 全体をメインフレーム・データベースおよび中型

機データベースに接続します。クライアントがゲートウェイ・サーバーを介してホストに接続する 3 層環境用に設計されています。

DB2 コネクト アンリミテッド・エディション は、DB2 コネクト パーソナル・エディションおよび DB2 コネクト エンタープライズ・エディションのライセンスを無制限に提供します。アクセスされる OS/390 のサイズに基づいて、これらのライセンスすべてを一定価格で購入できます。

関連製品

次の製品は、DB2 ユニバーサル・データベースを使用して作業します。

DB2 リレーショナル・コネクト

DB2 リレーショナル・コネクトは、照会内で DB2 データを Oracle データと結合することにより、連合データにアクセスする機能を提供します。Windows NT、Windows 2000、および AIX 上の DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ・エディション、またはエンタープライズ拡張エディションのもとで作業します。

DB2 ウェアハウス・マネージャー

DB2 ウェアハウス・マネージャーは、ウェアハウスまたはデータマートの管理者に、拡張された管理機能を提供します。データの移動プロセスを管理する機能だけでなく、ウェアハウスまたはデータマートに対して行われる随時照会の作業負荷を管理する機能も提供します。この製品には、次のものが含まれます。

- ソースとウェアハウス・ターゲット間のデータの流れを管理するウェアハウス・エージェント。
- ウェアハウスに移動するデータを整理し、変換するウェアハウス・トランスフォーマー。
- ユーザーを必要なデータに導く、統合されたビジネス情報カタログ。
- エンド・ユーザー・リポジトリおよび CASE ツールによるメタデータ交換。
- 洗練された照会管理および作業負荷分散ツールである DB2 クエリー・パトローラー。これは、以前は別個の製品でした。クエリー・パトローラーを使用するには、クエリー・パトローラー・サーバーがインストールされている必要があります。クエリー・パトローラー・クライアント・サポートは、DB2 アドミニストレーション・クライアントでのみ使用可能です。詳しくは、DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き を参照してください。

この製品は、DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ・エディション、およびエンタープライズ拡張エディションのシステムで使用可能です。

DB2 OLAP Server

DB2 OLAP Server は、ユーザーが情報にすばやくアクセスできるように、データの高速かつ直感的なオンライン分析処理を提供します。OLAP Server は、多次元のリレーショナル・データベースの情報の計算、統合、および取り出しを行う多次元要求を処理します。

DB2 OLAP Server を使うと、次のことが可能です。

- 組み込まれている数学、会計および統計関数を使って分析アプリケーションを構築し、データを多次元キューブで定義する。
- さまざまな視点から多次元データを表示する。
- 新しいデータ次元の追加、次元階層の変更、および計算の変更を動的に行う。
- スプレッドシートと Web ブラウザーをクライアントとして使用し、別個の SQL 照会を使わずにデータを分析する。
- 個々のアクセス・レベルを定義することによって、データ・セキュリティを保証する。

同時に 3 人のユーザーのみをサポートする OLAP Starter Kit が、DB2 ユニバーサル・データベースとともにインストールされます。後で、この OLAP Starter Kit を、完全な DB2 OLAP Server 製品にアップグレードできます。

Intelligent Miner

Intelligent Miner ファミリーは、2 つの製品から構成されています。

- DB2 Intelligent Miner for Data は、リレーショナル・データベース中の大量のデータから、価値のある情報だけを抽出します。
- Intelligent Miner for Text は、テキスト・ファイル、電子メール、および Web ページなどの未構築の情報を処理します。

DB2 地理情報エクステンダー

DB2 地理情報エクステンダーにより、地理データを既存のビジネス・データに統合できます。次のものが含まれます。

- 点、線、および多角形などのデータ・タイプ
- 面積、端点、交差部分などの関数
- 空間データ用の索引付けスキーム

この製品は、DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ・エディション、およびエンタープライズ拡張エディションのシステムで使用可能です。

DB2 Net Search エクステンダー

DB2 Net Search エクステンダーには、Net.Data、Java、または DB2 CLI アプリケーションに高速な全文テキスト検索の機能を追加する、DB2 ストアード・プロシージャが含まれます。また、アプリケーション・プログラマーに、ファジー検索、語幹検索、ブール演算子、およびセクション検索などのさまざまな検索機能を提供します。DB2 Net Search エクステンダーを使った検索は、特にインターネットで、大きな索引に対する検索パフォーマンスおよび並行照会に応じたスケーラビリティが重要な要因である場合に役立ちます。

DB2 データ・リンク・マネージャー

DB2 データ・リンク・マネージャーは、DB2 ユニバーサル・データベースの外部のファイル・システムに物理的に存在するファイルに、参照保全、アクセス制御、および回復機能を提供します。データ・リンクのテクノロジーに含まれる DATALINK データ・タイプは、DB2 ユニバーサル・データベースの SQL データ・タイプとして実装されたもので、データベースの外部に保管されたオブジェクトを参照します。データ・リンク・マネージャーは、Windows NT および AIX システムで使用可能です。AIX では、ネイティブ (または JFS) ファイル・システムで、または Transarc DCE-DFS ファイル・サーバー環境で使用できます。

Tivoli Enterprise

Tivoli Enterprise は、データ・センター、分散システム、およびモバイル・ラップトップを含むエンタープライズ環境全体を単一のビジネス単位として管理するための管理アプリケーション製品群です。DB2 は、Tivoli Ready として認定されています。

DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションを使用したデータの処理

DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションを使うと、データを保管するためのリレーショナル・データベースが提供される他に、ローカル・アプリケーションのデータを照会、更新、挿入、または削除するための要求を発行することもできます。図1は、ローカル・データベースにアクセスするローカル・アプリケーションをもった DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションを示します。

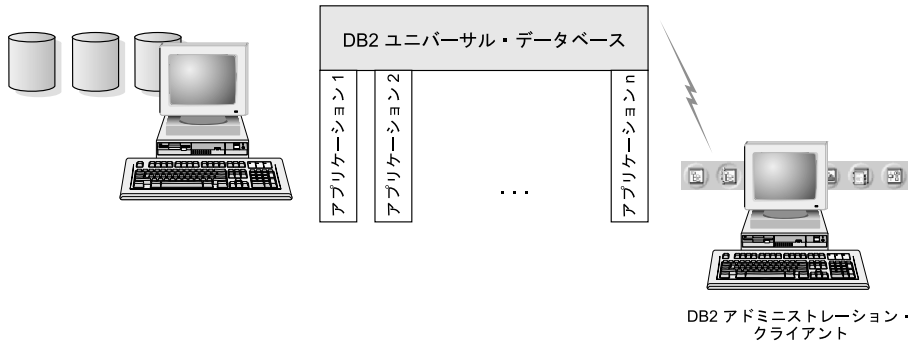


図1. ローカル・アプリケーションをもった DB2 パーソナル・エディション

DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションには、パフォーマンスの調整、リモート DB2 サーバーへのアクセス、単一サイトからのすべてのサーバーの管理、および SQL 照会の処理を行うためのグラフィカル・ツールが入っています。これらのツールの詳細については、『DB2 管理ツールを使用したインスタンスおよびデータベースの管理』を参照してください。

DB2 管理ツールを使用したインスタンスおよびデータベースの管理

DB2 管理ツールを使用すると、ローカルまたはリモート・サーバーを管理できます。コントロール・センターを使用して、DB2 インスタンスおよびデータベースの構成、データのバックアップと回復、ジョブのスケジュール設定、およびメディアの管理などのサーバー管理タスクを、すべてグラフィカル・インターフェースから実行します。

コントロール・センターを使用したインスタンスおよびデータベース・オブジェクトの管理

コントロール・センターは、インスタンスおよびデータベース・オブジェクト（表スペース、表、およびパッケージなど）とその相関関係を表示します。コントロール・センターを使って、単一の制御点から、ローカルおよびリモート・サーバーを管理できます。メインの「コントロール・センター (Control Center)」ウィンドウの詳細については、64ページの図2を参照してください。

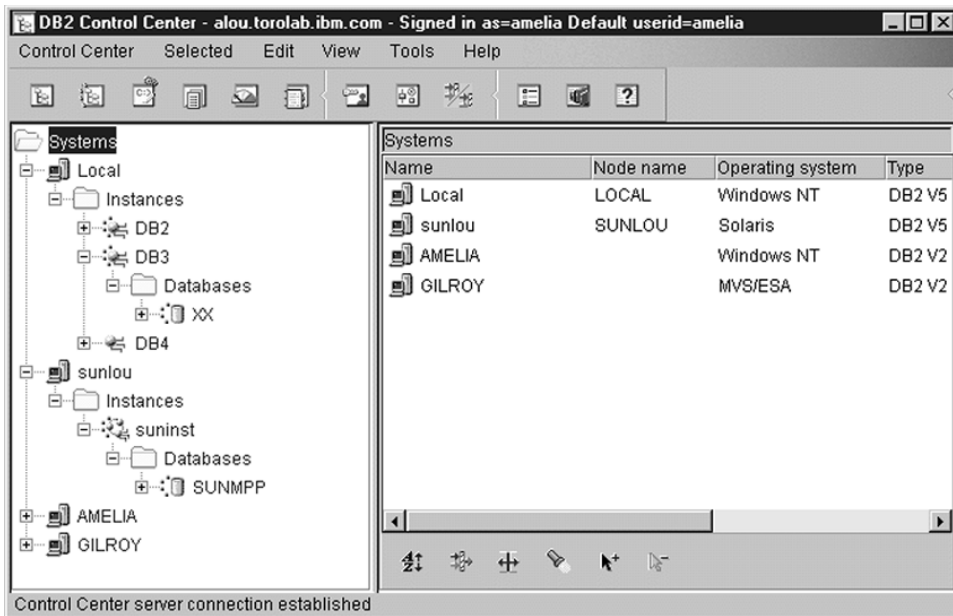


図2. 「コントロール・センター (Control Center)」メイン・ウィンドウ

コントロール・センターは、単一区画および複数区画データベース・システムを、*Discovery* によって識別します。*Discovery* は *DB2SYSTEM*、*DB2ADMINSEVER* および *DB2COMM* レジストリー値を使用します。これらのレジストリー値の詳細については、*管理の手引き* を参照してください。

コントロール・センターから、データベース・オブジェクト上で操作を実行できます。これらの操作には、以下のものがあります。

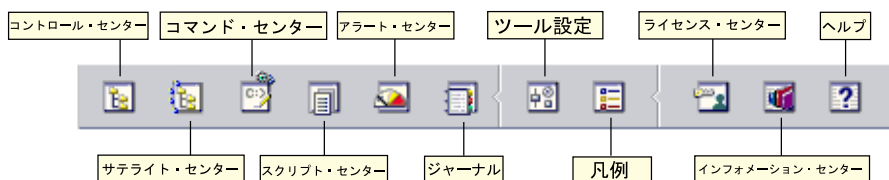
- データベースの作成および除去
- 表スペースまたは表の作成、更新、および除去
- 索引の作成、更新、および除去
- データベースまたは表スペースのバックアップと回復
- システム相互間でデータを複製するための複製ソースと加入の定義
- サーバー上のリソースおよびイベントの監視

次の方法によっても DB2 インスタンスを制御できます。

- 通信プロトコルの保守
- パフォーマンスに影響を与えるデータベース管理値およびデータベース構成値の設定

複雑なタスクの実行に備えて、ウィザードが提供されています。ウィザードは、たとえば、システムのパフォーマンスを調整するのに使えます。各種のウィザードとその起動方法の詳細については、90ページの『DB2 ウィザードの使用』を参照してください。

コントロール・センターからは、次のように、サーバーを管理するのに役立つ追加機能も提供されます。



コントロール・センター

コントロール・センターを使用して、サーバーを管理するコントロール・センターの別のセッションを開始します。

サテライト・センター

サテライト・センターを使って、特定の DB2 コントロール・サーバーがサービスを行うサテライトを管理します。サテライトおよびグループに対する作成、除去、変更、および管理機能を提供します。また、スクリプトを作成および管理して、サテライトを管理することもできます。

データウェアハウスセンター

データウェアハウスセンターでは、ウェアハウスの管理、ソースおよびターゲットなどのウェアハウス・オブジェクトの作成と管理、ステップおよびプロセスの定義、抽出、変換、操作およびロード、およびステップのスケジュールと自動化を行います。

コマンド・センター

DB2 コマンドや SQL ステートメントを対話式ウィンドウに入力し、その実行結果を結果ウィンドウに表示するには、コマンド・センターを使います。結果をスクロールしたり、出力をファイルに保管したりすることができます。

スクリプト・センター

保管して後から起動できるように、スクリプト・センターを使用してスクリプトを作成します。このようなスクリプトには、DB2 コマンド、SQL ステートメント、およびオペレーティング・システム・コマンドを入れることができます。スクリプトは、スケジュール設定して自動実行させることができます。このようなジョブは、1 回だけ実行させるこ

とも、反復スケジュールに従って実行させることもできます。反復スケジュールは、バックアップなどのタスクの場合に特に役立ちます。

アラート・センター

潜在的な問題の早期発見のためにシステムを監視したり、発見した問題を解決する処置を自動化したりするには、アラート・センターを使用します。

ジャーナル

実行保留中、実行中、または実行済みのジョブに関するすべての入手可能な情報を表示するには、ジャーナルを使います。また、ジャーナルを使うと、回復活動記録ログ、アラート・ログ、およびメッセージ・ログを表示したり、自動で実行されたジョブの結果を再表示したりすることもできます。

ライセンス・センター

ライセンス・センターは、ライセンスを管理し、ライセンス状況、およびシステム上にインストールされている DB2 製品の使用状況を表示するのに使用します。また、適切なライセンス・モニターを行えるようにシステムを構成するのにも使用できます。

ストアード・プロシージャ・ビルダー

ストアード・プロシージャ・ビルダーでは、ローカルおよびリモート DB2 サーバーでストアード・プロシージャを作成し、既存のストアード・プロシージャの変更と再作成を行い、インストールされたストアード・プロシージャの実行のテストおよびデバッグのためにストアード・プロシージャを実行します。

ツール設定

DB2 管理ツールの設定値を変更するには、ツール設定を使います。

インフォメーション・センター

インフォメーション・センターを使用すると、DB2 製品情報にすばやくアクセスすることができます。この製品情報には、データベース・タスク、参照資料、DB2 文書、ウェアハウス管理情報、トラブルシューティング援助機能、アプリケーション開発用のサンプル・プログラム、および DB2 Web 関連の URL などの項目が含まれます。

DB2 パフォーマンス・モニターおよび Visual Explain を使用して、パフォーマンスを分析することもできます。これらのツールは、コントロール・センターから使用できます。



システムのパフォーマンスを監視するには、**DB2 パフォーマンス・モニター**を使用します。活動を監視するには、特定の期間のデータをサンプリングするか、または特定のイベントのデータを使います。詳細については、68ページの『**DB2 パフォーマンス・モニターを使用したデータベースの監視**』を参照してください。



Visual Explain は、**Explained SQL** ステートメントへのアクセス・プランをグラフとして表示します。グラフから読み取る情報を使って、**SQL** 照会を調整し、パフォーマンスを改善することができます。詳細については、68ページの『**Visual Explain を使用しての SQL アクセス・プランの表示**』を参照してください。

その他の詳細については、**管理の手引き** または**オンライン・ヘルプ**を参照してください。

サーバーでの通信の管理

コントロール・センターを使うと、サーバーの**プロトコル設定値**を表示、更新、およびリセットできます。これらの機能にアクセスするには、インスタンスで**右マウス・ボタン**をクリックし、**ポップアップ・メニュー**から「**通信のセットアップ (Setup communications)**」オプションを選択します。このツールは、データベース管理者が以下のことを行うのに使います。

- データベース・マネージャー・パラメーターを構成するには、インスタンスで**右マウス・ボタン**をクリックし、**ポップアップ・メニュー**から「**構成 (Configure)**」オプションを選択します。デフォルトでは、**セットアップ・プログラム**は、システム上で見つかるほとんどの通信**プロトコル**を検出し、構成します。
- クライアントを構成するのに使える**プロファイル**中のデータベース情報を**エクスポート**するには、システムで**右マウス・ボタン**をクリックし、**ポップアップ・メニュー**から「**サーバー・プロファイルのエクスポート (Export Server Profile)**」オプションを選択します。



DB2 パーソナル・エディションは、データへの**インバウンド・クライアント要求**を受け入れません。**インバウンド通信**は、**DB2 パーソナル・エディション**の**ワークステーション**でのみ構成できます。この場合のみ **DB2 アドミニストレーション・クライアント**からの**管理要求**が許可されます。

サーバー通信を構成する方法については、**インストールおよび構成 補足**を参照してください。

DB2 パフォーマンス・モニターを使用したデータベースの監視

DB2 パフォーマンス・モニターを使って、以下のことを行えます。

- データベース・アプリケーションまたはデータベース・マネージャーでのパフォーマンス上の問題を識別および分析する。
- 潜在的な問題を検出するために、早期警告システムを使用する。
- 検出した問題を解決するアクションを自動化する。
- あらかじめ備わったデフォルト・セット以外に、独自の統計を定義する。

データベース・アクティビティーの現行の状態を監視するか、特定のイベントが発生した場合の情報を収集するかを選択することができます。パフォーマンス・モニターを使うと、指定した間隔で時刻ごとの情報を得ることができます。イベント・アナライザーにより、デッドロックおよびトランザクション完了などの事象の発生についての情報を表示できます。

さらに情報が必要な場合には、[管理の手引き](#) または [オンライン・ヘルプ](#) を参照してください。また、Windows パフォーマンス・モニタ (Windows NT および Windows 2000 でサポート) を使って、データベースとシステム・パフォーマンスの両方をモニターすることもできます。DB2 リソースを登録する方法と、Windows パフォーマンス・モニタを使用する方法については、[管理の手引き](#) を参照してください。

Visual Explain を使用しての SQL アクセス・プランの表示

Visual Explain は、データベース管理者およびアプリケーション開発者が以下のことを行うのに役立ちます。

- 特定の SQL ステートメント用にデータベース・マネージャーの最適化プログラムが選んだアクセス・プランを表示する。
- SQL ステートメントを調整してパフォーマンスを向上させる。
- アプリケーション・プログラムとデータベースを設計する。
- システム・カタログ内の統計も含め、アクセス・プランの詳細をすべて表示する。
- 表に索引を追加するかどうかを決定する。
- アクセス・プランまたは SQL ステートメントのパフォーマンスを分析して、問題の源を識別する。
- 可搬性スナップショット機能を使って、任意のリモート DB2 サーバーからスナップショットを表示する。
- サポートされるすべての DB2 構成上の照会のためのアクセス・プランを表示する。

さらに情報が必要な場合には、 *管理の手引き* または *オンライン・ヘルプ* を参照してください。

クライアント構成アシスタントを使用したデータベースへの接続の管理

クライアント構成アシスタント (CCA) は、リモート・サーバーへのデータベース接続を管理するのに役立ちます。CCA は OS/2 および Windows 32 ビットオペレーティング・システムで使用可能であり、サーバーと通信する OS/2、Windows 9x、Windows NT、または Windows 2000 クライアントをセットアップするのに適しています。

コマンド行プロセッサを使用して、任意のプラットフォームでも DB2 クライアントをセットアップできます。詳細については、*インストールおよび構成補足* を参照してください。

CCA を使用すれば、以下のことを行えます。

- アプリケーションで使用できるようにデータベースをカタログ化する。3 つの方法が可能です。
 - データベース管理者が提供するプロファイルを使って、接続を自動的に定義する。クライアント・アクセスはそのデータベース用に自動的にセットアップされます。
 - ネットワークで使用可能なデータベースを検索し、そのうちの 1 つを選ぶ。クライアント・アクセスはそのデータベース用に自動的にセットアップされます。
 - 必要な接続パラメーターを入力することによって、データベースへの接続を手動で構成する。
- カatalog・データベースを除去したり、カatalog・データベースの特性を変更したりする。
- クライアントのデータベース情報と構成情報を含むクライアント・プロファイルをエクスポートおよびインポートする。
- システムで識別されるローカルまたはリモート・データベースに対する接続をテストする。
- リストからユーティリティーまたはバインド・ファイルを選択して、データベースにアプリケーションをバインドする。
- システム上でクライアント構成パラメーターを調整する。パラメーターは論理的にグループ化されており、パラメーターが選択されると、インターフェースで推奨設定値が提供されます。
- クライアント構成情報をプロファイルにエクスポートする。

- プロファイルから構成情報をインポートする。
- サーバー・パスワードを更新する。

データウェアハウスセンターを使用したウェアハウスの管理

DB2 ユニバーサル・データベースには、データウェアハウス処理を自動化する構成要素であるデータウェアハウスセンターがあります。データウェアハウスセンターを使って、ウェアハウスに含めるデータを定義できます。次に、データウェアハウスセンターを使って、ウェアハウス内のデータの自動リフレッシュをスケジュールできます。

データウェアハウスセンターでは、特定のウェアハウス・オブジェクト (サブジェクト領域、ウェアハウス・ソース、ウェアハウス・ターゲット、エージェント、エージェント・サイト、ステップ、およびプロセスを含む) を管理できます。

また、データウェアハウスセンターでは次の作業を実行できます。

- サブジェクト領域を定義する。サブジェクト領域では、特定のトピックまたは機能に関連するプロセスを論理的にグループ化します。
- ソース・データを調査し、ウェアハウス・ソースを定義する。
- データベース表を作成し、ウェアハウス・ターゲットを定義する。
- ソース・データを移動したりウェアハウスに適した形式に変換したりする方法を指定するプロセスを定義する。
- ステップをテストおよびスケジュールする。
- 機密保護を定義し、データベース・カレンシーを監視する。
- スタースキーマ・モデルを定義する。

管理サーバーについて

管理サーバーは、DB2 管理ツールおよびクライアント構成アシスタント (CCA) からの要求に応えます。DB2 管理ツールによって、サーバーでデータベース・マネージャー構成パラメーターを開始、停止、および設定できます。CCA は管理サーバーを使用してクライアントのデータベースをカタログ作成します。

管理サーバー (DAS) は、管理および検出したいすべてのサーバーに常駐していなければなりません。デフォルトの DAS は DB2AS で、これは db2setup ユーティリティを使って作成されるデフォルトのユーザー ID です。

DB2 アプリケーション開発クライアントを使用したアプリケーション開発

DB2 アプリケーション開発クライアントは、データベース・アプリケーション開発者の要件を満たすよう設計されたツールの集まりです。これには、文字ベース、マルチメディア、またはオブジェクト指向のアプリケーションを作成するためのライブラリー、ヘッダー・ファイル、文書化された API、およびサンプル・プログラムが含まれます。

DB2 アプリケーション開発クライアントは、プラットフォーム固有のバージョンを各サーバー CD-ROM から入手できます。開発者エディションのパッケージには、サポートされる複数のオペレーティング・システム用のアプリケーション開発クライアントが含まれています。パーソナル開発者エディションのパッケージには、OS/2、Windows および Linux 用のアプリケーション開発 CD-ROM が入っています。ユニバーサル開発者エディションのパッケージには、サポートされるすべてのオペレーティング・システム用のアプリケーション開発 CD-ROM が入っています。

DB2 クライアントを介して、これらのアプリケーションはすべてのサーバーにアクセスでき、DB2 コネクト製品 (または DB2 エンタープライズ拡張エディションか DB2 エンタープライズ・エディションで提供される DB2 コネクト機能) を使用して、DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版)、DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版)、および DB2 (VSE および VM 版) にもアクセスできます。

DB2 アプリケーション開発クライアントでは、次のようなインターフェースを使用するアプリケーションを開発することができます。

- 組み込み SQL
- コール・レベル・インターフェース (CLI) 開発環境 (Microsoft の ODBC と互換性があります)
- Java データベース・コネクティビティー (JDBC)
- Java Embedded SQL (SQLJ)
- 管理機能を使用して DB2 データベースを管理する、DB2 アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API)

DB2 アプリケーション開発クライアントには次のものが含まれます。

- Java、C、C++、COBOL、および FORTRAN のプリコンパイラー
- SQLJ および DB2 CLI を使用するアプリケーションを開発するためのライブラリー、組み込みファイル、およびサンプル・コード
- テンプレートおよびトークンを使用するメタデータ管理用の単一制御点

- Java アプリケーションおよびアプレットを開発する JDBC および SQLJ サポート
- SQL ステートメントを原型とし、随時データベース照会を実行する、CLP 経由の対話式 SQL
- 他のアプリケーション開発ツールを使用可能にして、DB2 とその製品へのプリコンパイラー・サポートを実現する API
- ISO/ANSO SQL92 エントリー・レベル標準規格に準拠していない、または DB2 (OS/390 版) がサポートしていないアプリケーション内の組み込み SQL を識別する、SQL92 および MVS Conformance Flagger

DB2 アプリケーション開発クライアントの機能の詳細、およびその使用方法の指示については、ご使用のプラットフォームでサポートされるコンパイラーの完全なリストと一緒に、[アプリケーション構築の手引き](#) で説明されています。

独自のアプリケーションの実行

以下のような各種アプリケーションから DB2 データベースにアクセスすることができます。

- 組み込み SQL (Java SQLJ アプリケーションおよびアプレットを含む)、API、ストアード・プロシージャ、ユーザー定義関数、DB2 CLI への呼び出し、または JDBC アプリケーションおよびアプレットへの呼び出しを含む、DB2 アプリケーション開発クライアントを使用して開発されるアプリケーション
- ロータス・アプローチのような ODBC アプリケーション
- HTML および SQL を含む Net.Data マクロ

DB2 CLI/ODBC ドライバーは、DB2 クライアントのインストール時の任意選択構成要素です。これは、CLI、ODBC、JDBC、および一部の SQLJ アプリケーションを実行するのに必要です。

独自のアプリケーションを実行することに関する詳細については、[インストールおよび構成 補足](#) を参照してください。

付録F. DB2 ライブラリーの使用法

DB2 ユニバーサル・データベース ライブラリーは、オンライン・ヘルプ、ブック (PDF および HTML)、および HTML 形式のサンプル・プログラムから成っています。このセクションでは、ユーザーに提供される情報について紹介し、その入手方法を示します。

オンライン製品情報をご利用になるには、インフォメーション・センターを使用することができます。詳細については、89ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。ここではタスク情報、DB2 ブック、トラブルシューティング情報、サンプル・プログラム、および Web の DB2 情報を見ることができます。

DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料

DB2 情報

以下に示す表では、DB2 ブックを 4 つのカテゴリーに分類しています。

DB2 の手引きおよび解説書

これらの資料は、すべてのプラットフォームに共通の DB2 情報を含んでいます。

DB2 のインストールおよび構成の情報

これらの資料は、特定のプラットフォーム上の DB2 ごとに用意されています。たとえば、OS/2、Windows、および UNIX ベースのプラットフォームで稼働するそれぞれの DB2 用に、別個の概説およびインストール 資料が用意されています。

プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)

これらのサンプルは、アプリケーション開発クライアントとともにインストールされるサンプル・プログラムの HTML 版です。これらのサンプルは参考用であり、実際のプログラムに代わるものではありません。

リリース情報

これらのファイルには、DB2 ブックには含まれなかった最新の情報が記載されています。

インストール情報、リリース情報、およびチュートリアルは、製品 CD-ROM から HTML 形式で参照することができます。ほとんどの資料は、製品

CD-ROM から HTML 形式で表示できますし、DB2 の資料 CD-ROM から Adobe Acrobat (PDF) 形式で表示し印刷することができます。IBM にハードコピー版の資料を注文したい場合は、85ページの『印刷資料の注文方法』を参照してください。注文可能な資料については、以下の表をご覧ください。

OS/2 および Windows プラットフォームの場合、HTML ファイルは `sql1lib¥doc¥html` ディレクトリーにインストールできます。DB2 情報はいくつかの言語で提供されています。しかし、すべての言語に翻訳されているわけではありません。ある言語で情報が提供されていない場合は、英語版の情報が提供されます。

UNIX プラットフォームの場合、言語ごとに異なる複数の HTML ファイルを `doc/%L/html` ディレクトリーにインストールできます。ここで、`%L` は地域を表しています。詳細については、適切な「概説およびインストールの手引き」を参照してください。

DB2 ブックを入手して情報を利用するには、次のようなさまざまな方法があります。

- 88ページの『オンライン情報の表示』
- 93ページの『オンライン情報の検索』
- 85ページの『印刷資料の注文方法』
- 85ページの『PDF 資料の印刷』

表 10. DB2 情報

資料名	説明	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
DB2 の手引きおよび解説書情報			
管理の手引き	管理の手引き: 計画 は、データベース概念について概説し、設計 (たとえば、論理および物理データベース設計) に関する情報を提供し、高い可用性について解説しています。	第 1 巻 SC88-8513 db2d1x70	db2d0
	管理の手引き: インプリメンテーション は、設計、データベースへのアクセス、監査、バックアップ、および回復などのインプリメンテーションについて説明しています。	第 2 巻 SC88-8511 db2d2x70	
	管理の手引き: パフォーマンス は、データベース環境について解説し、さらにアプリケーションのパフォーマンスの評価と調整の方法について説明しています。	第 3 巻 SC88-8512 db2d3x70	
管理 API 解説書	データベースの管理に使用できる DB2 アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) およびデータ構造について説明します。また、この資料は、アプリケーションから API を呼び出す方法も示します。	SC88-8514 db2b0x70	db2b0
アプリケーション構築の手引き	環境設定に関する情報を提供し、Windows、OS/2、および UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 アプリケーションのコンパイル、リンク、実行の各ステップについて説明します。	SC88-8515 db2axx70	db2ax
APPC, CPI-C, and SNA Sense Codes	DB2 ユニバーサル・データベース製品をご使用中に発生する可能性のあるセンス・コード APPC、CPI-C、および SNA についての一般情報を提供します。 HTML 形式でのみご利用いただけます。	資料番号なし db2apx70	db2ap

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
アプリケーション開発の手引き	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、組み込み SQL または Java (JDBC および SQLJ) を使用して開発する方法について説明します。さらに、ストアド・プロシージャの作成方法、ユーザー定義関数の作成方法、ユーザー定義タイプの作成方法、トリガーの使用法、区画化されている環境または統合されているシステムでのアプリケーションの開発方法などについて解説されています。	SC88-8516	db2a0
		db2a0x70	
コール・レベル・インターフェースの手引きおよび解説書	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、DB2 コール・レベル・インターフェース (Microsoft ODBC 仕様互換の呼び出し可能 SQL) を使用して開発する方法について説明します。	SC88-8517	db2l0
		db2l0x70	
コマンド解説書	コマンド行プロセッサの使用法について説明し、データベースの管理に使用できる DB2 コマンドについて解説しています。	SC88-8518	db2n0
		db2n0x70	
コネクティビティー 補足	DB2 (AS/400 版)、DB2 (OS/390 版)、DB2 (MVS 版)、または DB2 (VM 版) を DRDA アプリケーション・リクエスターとして DB2 ユニバーサル・データベースとともに使用するためのセットアップ情報および参照情報を提供します。また、この資料は DRDA アプリケーション・サーバーを DB2 コネクト アプリケーション・リクエスターとともに使用する方法の詳細を示します。	資料番号なし	db2h1
		db2h1x70	
	HTML と PDF でのみ利用可能		
データ移動ユーティリティー 手引きおよび解説書	データの移動を行う DB2 ユーティリティー (インポート、エクスポート、ロード、AutoLoader、および DPROF など) の使用法について説明しています。	SC88-8522	db2dm
		db2dmx70	

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
データウェアハウスセンター 管理の手引き	データウェアハウスセンターを使用してデータウェアハウスを構築および保守する方法を説明します。	SC88-8545 db2ddx70	db2dd
データウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き	プログラマーがアプリケーションをデータウェアハウスセンターおよび情報カタログ・マネージャーと統合するのに役立つ情報を提供します。	SC88-8546 db2adx70	db2ad
DB2 コネクト 使用者の手引き	DB2 コネクト製品の概念、プログラミング、および一般的な使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8521 db2c0x70	db2c0
DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き	DB2 クエリー・パトローラー・システムの運用の概説を行い、運用および管理に関する詳細情報、および管理用グラフィカル・ユーザー・インターフェース・ユーティリティについてのタスク情報を提供します。	SC88-8525 db2dwx70	db2dw
DB2 クエリー・パトローラー 使用者の手引き	DB2 クエリー・パトローラーのツールや関数の使用方法を説明します。	SC88-8527 db2wwx70	db2ww
用語集	DB2 およびその構成要素で使用される用語の定義を示します。 HTML 形式と SQL 解説書 で利用可能	資料番号なし db2t0x70	db2t0
イメージ、オーディオ、およびビデオ・エクステンダー 管理およびプログラミングの手引き	DB2 エクステンダーの一般情報について提供し、画像、音声、およびビデオ (IAV) エクステンダーの管理と構成について、および IAV エクステンダーを使用したプログラミングについて説明しています。さらに、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルも収録されています。	SC88-8609 dmbu7x70	dmbu7
情報カタログ・マネージャー 管理の手引き	情報カタログを管理するためのガイドです。	SC88-8547 db2dix70	db2di
情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書	情報カタログ・マネージャー用の体系化されたインターフェースの定義を示します。	SC88-8549 db2bix70	db2bi

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き	情報カタログ・マネージャー・ユーザー・インターフェースの使用に関する情報を提供します。	SC88-8548 db2aix70	db2ai
インストールおよび構成 補足	プラットフォーム固有の DB2 クライアントの計画、インストール、およびセットアップのガイドです。この補足資料には、バインド、クライアント / サーバー通信の設定、DB2 GUI ツール、DRDA AS、分散インストール、分散要求の構成、および異種データ・ソースへのアクセスについても説明されています。	GC88-8524 db2iyx70	db2iy
メッセージ解説書	DB2、情報カタログ・マネージャー、およびデータウェアハウスセンターから出されるメッセージとコードをリストし、取るべき処置を解説しています。	第 1 巻 GC88-8543 db2m1x70 第 2 巻 GC88-8544 db2m2x70	db2m0
<i>OLAP Integration Server Administration Guide</i>	OLAP Integration Server の Administration Manager 構成要素の使用方法を説明します。	SC27-0782 db2dpx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Metaoutline User's Guide</i>	標準の OLAP Metaoutline インターフェースを使用して (Metaoutline Assistant を使用するのではなく) OLAP metaoutline を作成しデータを取り込む方法を説明しています。	SC27-0784 db2upx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Model User's Guide</i>	(Model Assistant ではなく) 標準的な OLAP Model Interface を使用して OLAP モデルを作成する方法を説明します。	SC27-0783 db2lpx70	n/a
<i>OLAP Setup and User's Guide</i>	OLAP Starter Kit の構成およびセットアップに関する情報を提供します。	SC27-0702 db2ipx70	db2ip

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
<i>OLAP Spreadsheet Add-in User's Guide for Excel</i>	Excel 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC27-0786 db2epx70	db2ep
<i>OLAP Spreadsheet Add-in User's Guide for Lotus 1-2-3</i>	ロータス 1-2-3 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC27-0785 db2tpx70	db2tp
レプリケーションの手引きおよび解説書	DB2 に付属の IBM レプリケーション・ツールの計画、構成、管理、および使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8550 db2e0x70	db2e0
地理情報エクステンダー使用者の手引きおよび解説書	地理情報エクステンダーのインストール、構成、管理、プログラミング、およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。また、地理情報データの概念についての重要事項を示し、地理情報エクステンダー固有の参照情報 (メッセージおよび SQL) を提供します。	SC88-8624 db2sbx70	db2sb
SQL 概説	SQL の概念を紹介し、構造体とタスクの例を多数提供しています。	SC88-8539 db2y0x70	db2y0
SQL 解説書	SQL の構文、セマンティクス、および言語規則について説明します。また、この資料には、各リリース間の互換性、製品の制限事項、およびカタログ・ビューも含まれます。	第 1 巻 SC88-8540 db2s1x70 第 2 巻 SC88-8657 db2s2x70	db2s0
システム・モニター 手引きおよび解説書	データベースおよびデータベース・マネージャーに関連したさまざまな情報を収集する方法を示します。この資料は、この情報を利用して、データベース活動の把握、パフォーマンス向上、および問題原因の判別を行う方法を説明しています。	SC88-8523 db2f0x70	db2f0

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
テキスト・エクステンダー管理およびプログラミング	DB2 エクステンダーの一般情報、テキスト・エクステンダーの管理および構成情報、およびテキスト・エクステンダーを使用したプログラミングの方法について解説します。この資料には、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルが含まれています。	SC88-8610 desu9x70	desu9
問題判別の手引き	エラーの原因の判別、問題からの回復、および DB2 カスタマー・サービスの支援の下での診断ツールの使用法を記載しています。	GD88-7271 db2p0x70	db2p0
新機能	DB2 ユニバーサル・データベースバージョン 7 の新しい機能および拡張機能について説明します。	SC88-8541 db2q0x70	db2q0
DB2 のインストールおよび構成の情報			
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (OS/2 および Windows 版) 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 コネクト エンタープライズ・エディションで、計画、移行、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8520 db2c6x70	db2c6
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 コネクト エンタープライズ・エディションの計画、移行、インストール、構成、およびタスクに関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8519 db2cyx70	db2cy

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 コネクト パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、移行、インストール、および構成を行う場合のタスク情報を提供します。また、この資料はサポートされているすべてのクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8533	db2c1
		db2c1x70	
DB2 コネクト パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8528	db2c4
		db2c4x70	
DB2 データ・リンク・マネージャー (Windows 版) 概説およびインストール	AIX および Windows 32 ビット・オペレーティング・システムの DB2 データ・リンク・マネージャーで、計画、インストール、構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8532	db2z6
		db2z6x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 エンタープライズ拡張エディションの計画、インストール、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8530	db2v3
		db2v3x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット・オペレーティング・システムの DB2 エンタープライズ拡張エディションで、計画、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8529	db2v6
		db2v6x70	

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) 概説およびインストール	OS/2 オペレーティング・システムでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、移行、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8534 db2i2x70	db2i2
DB2 ユニバーサル・データベース (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、移行、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8536 db2ixx70	db2ix
DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 ユニバーサル・データベースで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8537 db2i6x70	db2i6
DB2 パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8535 db2i1x70	db2i1
DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 ユニバーサル・データベース・パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8538 db2i4x70	db2i4
DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引き	DB2 クエリー・パトローラーのインストール情報を提供します。	GC88-8526 db2iwx70	db2iw

表 10. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
ウェアハウス・マネージャ インストールの手引き	ウェアハウス・エージェント、ウェアハウス・トランスフォーマー、および情報カタログ・マネージャのインストール情報を提供します。	GC88-8572 db2idx70	db2id
プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)			
サンプル・プログラム (HTML)	DB2 のサポートするすべてのプラットフォームでのプログラム言語用に、サンプル・プログラム (HTML 形式) を提供します。これらのサンプル・プログラムは、参照用としてのみ提供されています。サンプルは、すべてのプログラミング言語で利用できるわけではありません。HTML サンプルが利用できるのは、DB2 アプリケーション開発クライアントがインストールされている場合だけです。 プログラムの詳細については、アプリケーション構築の手引き を参照してください。	資料番号なし	db2hs
リリース情報			
DB2 コネクト リリース情報	DB2 コネクトの資料には含められなかった最新の情報が収録されています。	注 #2 を参照してください。	db2cr
DB2 インストール情報	DB2 ブックには含められなかったインストールに関する最新の情報が収録されています。	製品 CD-ROM からのみ利用できます。	
DB2 リリース情報	DB2 ブックには含められなかった製品とその機能に関する最新の情報が収録されています。	注 #2 を参照してください。	db2ir

注:

1. ファイル名の 6 桁目の文字 *x* は、その資料の言語を表します。たとえば、ファイル名 db2d0e70 は、管理の手引き の英語版であることを示し、ファイル名 db2d0f70 は同じ資料のフランス語版を示します。資料の言語を表すためにファイル名の 6 桁目で使用されている文字は以下のとおりです。

言語	識別子
ブラジル・ポルトガル語	b
ブルガリア語	u
チェコ語	x
デンマーク語	d
オランダ語	q
英語	e
フィンランド語	y
フランス語	f
ドイツ語	g
ギリシャ語	a
ハンガリー語	h
イタリア語	i
日本語	j
韓国語	k
ノルウェー語	n
ポーランド語	p
ポルトガル語	v
ロシア語	r
簡体字中国語	c
スロベニア語	l
スペイン語	z
スウェーデン語	s
繁体字中国語	t
トルコ語	m

2. DB2 ブックには含められなかった最新の情報が、「リリース情報」で HTML 形式および ASCII ファイルとして利用できます。HTML 版は、インフォメーション・センターおよび製品 CD-ROM からご利用になれます。ASCII ファイルの参照方法:

- UNIX ベースのプラットフォームでは、ファイル `Release.Notes` を参照してください。このファイルは `DB2DIR/Readme/%L` ディレクトリーにあります。ここで `%L` は地域名を、`DB2DIR` は以下のものを表します。
 - `/usr/lpp/db2_07_01` (AIX の場合)
 - `/opt/IBMd2/V7.1` (HP-UX、DYNIX/ptx、Solaris、および Silicon Graphics IRIX の場合)
 - `/usr/IBMd2/V7.1` (Linux の場合)
- これ以外のプラットフォームでは、ファイル `RELEASE.TXT` を参照してください。このファイルは、製品がインストールされているディレクトリーにあります。OS/2 プラットフォームでは、**IBM DB2** フォルダをダブルクリックし、**Release Notes** アイコンをダブルクリックすることもできます。

PDF 資料の印刷

資料のハードコピー版が必要な場合、DB2 の資料 CD-ROM にある PDF ファイルを印刷することができます。Adobe Acrobat Reader を使用すれば、資料全体または特定のページを印刷することができます。ライブラリー内の各資料のファイルについては、75ページの表10 を参照してください。

Adobe Acrobat Reader の最新版は、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.com> から入手できます。

PDF ファイルは、DB2 の資料 CD-ROM に収録されており、ファイル拡張子 PDF が付いています。PDF ファイルにアクセスするには以下のようにします。

1. DB2 の資料 CD-ROM を挿入します。UNIX ベースのプラットフォームの場合は、DB2 資料 CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、概説およびインストール を参照してください。
2. Acrobat Reader を起動します。
3. 以下に示すいずれかの位置から必要な PDF ファイルを開きます。
 - OS/2 および Windows プラットフォームでは:
`x:%doc%language` ディレクトリー。ここで、*x* は CD-ROM ドライブを、*language* は 2 桁の言語を表す国コード (たとえば、EN は英語) を示します。
 - UNIX ベースのプラットフォームでは:
CD-ROM の `/cdrom/doc/%L` ディレクトリー。ここで、*/cdrom* は CD-ROM のマウント・ポイントを、*%L* は地域名を表します。

さらに、PDF ファイルを CD-ROM からローカル・ドライブまたはネットワーク・ドライブにコピーし、そこから参照することもできます。

印刷資料の注文方法

ハードコピー版の DB2 ブックは、個別に注文することができます。資料を注文するには、IBM 承認の販売業者または営業担当員に連絡してください。

DB2 オンライン文書

オンライン・ヘルプへのアクセス

すべての DB2 構成要素で、オンライン・ヘルプを利用できます。以下の表に、さまざまな種類のヘルプを示します。

ヘルプの種類	内容	利用方法
コマンド・ヘルプ	コマンド行プロセッサの コマンド構文について説明 します。	コマンド行プロセッサの対話モードから、次のよ うに入力します。 ? <i>command</i> ここで <i>command</i> はキーワードまたはコマンド全体 を表します。 たとえば、? <i>catalog</i> と入力すると、すべての CATALOG コマンドに関するヘルプが表示され、 ? <i>catalog database</i> と入力すると、CATALOG DATABASE コマンドのヘルプが表示されます。
クライアント構成アシ スタントのヘルプ	そのウィンドウまたはノートブックで実行できるタスクについて説明します。このヘルプは、知っておく必要のある概説および前提条件に関する情報を含みます。また、ウィンドウやノートブックの制御の使用方法を示します。	ウィンドウまたはノートブックから、「ヘルプ (Help)」押しボタンをクリックするか、または F1 キーを押します。
コマンド・センターの ヘルプ		
コントロール・センタ ーのヘルプ		
データウェアハウスセ ンターのヘルプ		
イベント・アナライザ ーのヘルプ		
情報カタログ・マネー ジャーのヘルプ		
サテライト管理センタ ーのヘルプ		
スクリプト・センター のヘルプ		

ヘルプの種類	内容	利用方法
メッセージ・ヘルプ	メッセージの原因、および取るべき処置を説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn</pre> <p>ここで、<i>XXXnnnnn</i> は有効なメッセージ識別子を表します。</p> <p>たとえば、? SQL30081 と入力すると、メッセージ SQL30081 に関するヘルプを表示します。</p> <p>一度に 1 画面分のメッセージ・ヘルプを表示させるには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn more</pre> <p>メッセージ・ヘルプをファイルに保管するには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn > filename.ext</pre> <p>ここで、<i>filename.ext</i> はメッセージ・ヘルプを保管するファイルを表します。</p>
SQL ヘルプ	SQL ステートメントの構文について説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>help statement</pre> <p>ここで、<i>statement</i> は SQL ステートメントを表します。</p> <p>たとえば、help SELECT と入力すると、SELECT ステートメントのヘルプが表示されます。</p> <p>注: UNIX ベースのプラットフォームでは、SQL ヘルプを利用できません。</p>
SQLSTATE ヘルプ	SQL 状態およびクラス・コードについて説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? sqlstate or ? class code</pre> <p>ここで、<i>sqlstate</i> は有効な 5 桁の SQL 状態を、<i>class code</i> は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。</p> <p>たとえば、? 08003 によって SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 によってクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。</p>

オンライン情報の表示

この製品に付属のブックは、ハイパーテキスト・マークアップ言語 (HTML) ソフトコピー形式です。ソフトコピー形式では情報を検索または表示したり、ハイパーテキスト・リンクを利用して関連情報に移動したりすることができます。また、1 つの端末を超えてライブラリーを容易に共用することができます。

オンライン・ブックやサンプル・プログラムは、HTML バージョン 3.2 仕様に準拠するすべてのブラウザを使って表示できます。

オンライン・ブックまたはサンプル・プログラムは、次のようにして表示します。

- DB2 管理ツールを実行している場合、インフォメーション・センターを使用します。
- ブラウザーで、**ファイル (File) → ページを開く (Open Page)** をクリックします。次のようなページを開いて、DB2 情報に関する説明とリンクを表示してください。

- UNIX ベースのプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
INSTHOME/sql1lib/doc/%L/html/index.htm
```

ここで %L はロケール名です。

- その他のプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
sql1lib¥doc¥html¥index.htm
```

パスは DB2 がインストールされているドライブです。

インフォメーション・センターをインストールしていない場合、**DB2 Information** アイコンをダブルクリックしてページを開くことができます。このアイコンは、ご使用のシステムに応じて、製品のメイン・フォルダー内または Windows 「スタート」メニューにあります。

Netscape ブラウザーのインストール

システムに Web ブラウザーがインストールされていない場合、製品の箱の中にある Netscape CD-ROM から Netscape をインストールすることができます。インストールに関する詳細な説明については、以下を参照してください。

1. Netscape CD-ROM を挿入します。
2. UNIX ベースのプラットフォームでは、CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、**概説およびインストール** を参照してください。

3. インストールの手順については、`CDNAVnn.txt` ファイルを参照します。ここで、`nn` は 2 桁の言語識別子を表します。ファイルは CD-ROM のルート・ディレクトリーにあります。

インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス

インフォメーション・センターを使用すると、DB2 製品情報にすばやくアクセスすることができます。インフォメーション・センターは、DB2 管理ツールを使用できるすべてのプラットフォームで利用できます。

インフォメーション・センターは「インフォメーション・センター (Information Center)」アイコンをダブルクリックすることによってオープンできます。このアイコンのある場所はシステムによって異なります。メイン・プロダクト・フォルダーか Windows の「スタート」メニューのどちらかです。

Windows プラットフォームの DB2 では、ツールバーおよびヘルプ・メニューを使用して、インフォメーション・センターにアクセスすることもできます。

インフォメーション・センターは 6 種類の情報を提供します。適切なタブをクリックすると、種類ごとに提供されているトピックが表示されます。

タスク (Tasks)

DB2 を使用して実行できる主要なタスク。

参照 (Reference)

DB2 参照情報 (キーワード、コマンド、API など)。

ブック (Books)

DB2 ブック。

トラブルシューティング (Troubleshooting)

エラー・メッセージのカテゴリーと、メッセージに対する回復処置。

サンプル・プログラム (Sample Programs)

DB2 アプリケーション開発クライアントに付属のサンプル・プログラム。DB2 アプリケーション開発クライアントをインストールしていない場合、このタブは表示されません。

Web

WWW 上にある DB2 情報。この情報にアクセスするには、ご使用のシステムから Web への接続が必要です。

リストから項目を 1 つ選択すると、インフォメーション・センターはビューアーを立ち上げて情報を表示します。選択した情報の種類に応じて、ビューアーはシステム・ヘルプ・ビューアー、エディター、または Web ブラウザーです。

インフォメーション・センターには検索機能が備わっており、リストを参照せずに特定のトピックを探すことができます。

テキストの全検索を行うには、インフォメーション・センター内のハイパーテキスト・リンク「**DB2 オンライン情報の検索 (Search DB2 Online Information)**」検索フォームに従います。

通常、HTML 検索サーバーは自動的に始動します。HTML 情報の検索がうまくいかない場合は、以下の方法の 1 つを使用して、検索サーバーを始動しなければならない場合もあります。

Windows では

「スタート」をクリックし、「プログラム」→「IBM DB2」→「Information」→「Start HTML Search Server」を選択します。

OS/2 では

「DB2 (OS/2 版)」フォルダーをダブルクリックして、「Start HTML Search Server」アイコンをダブルクリックします。

HTML 情報の検索でこの他の問題が発生した場合は、リリース情報を参照してください。

注: 検索機能は、Linux、DYNIX/ptx、および Silicon Graphics IRIX 環境では利用できません。

DB2 ウィザードの使用

ウィザードを使用すると、各タスクをステップごとに進めることによって、さまざまな管理タスクを遂行することができます。ウィザードは、コントロール・センターおよびクライアント構成アシスタントを通して使用できます。以下の表では、ウィザードとその目的をリストしています。

注: データベース作成、索引作成、複数サイト更新の構成、およびパフォーマンス構成ウィザードは、区分データベース環境で使用できます。

ウィザード	内容	利用方法
データベース追加 (Add Database)	クライアント・ワークステーション上にデータベースのカatalogを作成します。	クライアント構成アシスタントから、「追加 (Add)」をクリックします。

ウィザード	内容	利用方法
データベース・バックアップ (Back up Database)	バックアップ計画を決定、作成、およびスケジュールします。	「コントロール・センター (Control Center)」からバックアップするデータベースを右クリックし、「バックアップ (Backup)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。
複数サイト更新の構成 (Configure Multisite Update)	複数サイト更新、分散トランザクション、または 2 フェーズ・コミットを構成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「複数サイト更新 (Multisite Update)」を選択します。
データベース作成 (Create Database)	データベースを作成し、いくつかの基本的な構成タスクを実行します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。
表作成 (Create Table)	基本的なデータ・タイプを選択して、表の基本キーを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表 (Tables)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表 (Table Using Wizard)」を選択します。
表スペース作成 (Create Table Space)	新しい表スペースを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表スペース (Table Spaces)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表スペース (Table Space Using Wizard)」を選択します。
索引作成 (Create Index)	すべての照会について、作成すべき索引および除去すべき索引を提案します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「索引 (Index)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する索引 (Index Using Wizard)」を選択します。

ウィザード	内容	利用方法
パフォーマンス構成 (Performance Configuration)	ビジネス要件に適合するように構成パラメーターを更新して、データベースのパフォーマンスを調整します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、調整したいデータベースを右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。 区分データベース環境では、「Database Partitions」視点から、調整したい最初のデータベース区画を右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。
データベース復元 (Restore Database)	障害の後、データベースを回復します。どのバックアップを使用し、どのログを再生するかを判別を支援します。	「コントロール・センター (Control Center)」から復元するデータベースを右クリックし、「復元 (Restore)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。

文書サーバーのセットアップ

デフォルトでは、DB2 情報はローカル・システムにインストールされます。つまり、DB2 情報にアクセスする必要のある各担当者が同じファイルをインストールする必要があります。DB2 情報を 1 か所に格納するには、次のようにします。

1. `¥sqllib¥doc¥html` のすべてのファイルとサブディレクトリーを、ローカル・システムから Web サーバーにコピーします。各ブックには独自のサブディレクトリーがあり、そのブックを構成する必要な HTML および GIF ファイルが入っています。ディレクトリー構造は常に同じ状態に保つ必要があります。
2. Web サーバーを構成して、ファイルを新しい場所で検索するようにします。さらに詳しい情報については、インストールおよび構成 補足の NetQuestion 付録を参照してください。
3. インフォメーション・センターの Java バージョンをご使用の場合は、すべての HTML ファイルのベース URL を指定できます。この URL はブックのリストに使用してください。

4. 資料ファイルが表示されるようになったなら、よく使うトピックにはブックマークを付けておいてください。ブックマークを付けるページは、たとえば以下のものがあります。
 - ブックのリスト
 - 頻繁に使用されるブックの目次
 - 頻繁に参照する情報 (たとえば、ALTER TABLE トピックなど)
 - 検索フォーム

中央のマシンから DB2 ユニバーサル・データベース オンライン文書ファイルを提供する方法については、インストールおよび構成 補足の NetQuestion 付録を参照してください。

オンライン情報の検索

HTML ファイルの情報を検索するには、以下の方法のどれか 1 つを使用してください。

- 最上部にある「**検索 (Search)**」をクリックします。検索フォームを使用して特定のトピックを見つけます。この機能は、Linux、DYNIX/ptx、または Silicon Graphics IRIX 環境ではご利用になれません。
- 最上部にある「**索引 (Index)**」をクリックします。索引を使用して、ブック内の特定のトピックを見つけます。
- HTML 資料またはヘルプの目次あるいは索引を表示してから、Web ブラウザーの検索機能を利用して資料内の特定のトピックを見つけます。
- Web ブラウザーのブックマーク機能を使用して、特定のトピックにすばやく戻ります。
- インフォメーション・センターの検索機能を使用して、特定のトピックを検索します。詳しくは、89ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。

付録G. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に含まれる情報には、技術的に不正確なもの、または誤植が含まれる場合があります。これらに対する変更は、定期的に行われます。これらの変更は、資料の改訂版に含まれます。IBM は、本書で説明している製品、プログラムに対して、予告なく改良、変更を加える場合があります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するもので

はありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様になんら義務も負わせない適切な方法で、使用もしくは配布することがあります。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
Office of the Lab Director
1150 Eglinton Ave. East
North York, Ontario
M3C 1H7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書に含まれるパフォーマンス・データは、制御された環境下で決定されています。したがって、その他の稼働環境で得られる結果とは、かなり異なる可能性もあります。一部の測定値は、開発中のシステムを使用している場合があり、これらの測定値が一般的に提供可能なシステムで同様の数値になることを保証するものではありません。さらに、一部の測定値が推定されたものもあります。実測値と異なる場合があります。本書のユーザーは、使用される特定の環境での該当データを確認してください。

IBM 以外の製品については、当該製品の提供者から直接、出版されている資料または一般公開されている情報から入手しました。IBM は、これらの製品についてはテストを行っておらず、これらの IBM 以外の製品に関する性能、互換性またはその他の主張について確認することはできません。IBM 以外の製品の機能に対する質問は、それぞれの製品提供者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向性または意図については、予告なしに変更または中止する場合があります。IBM の目的および目標のみを示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれていますが、これは説明に具体性を与えるために記載されたものであり、それらの例には、個人、企業、ブランドの、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。それらの名前はすべて架空のものであり、また名称や住所が類似する企業が実在しても、それは偶然に過ぎません。

著作権：

本書に含まれる情報には、サンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語の形式で含まれており、様々な、オペレーティング・プラットフォームでのプログラミング技法を示しています。お客様は、これらのサンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームでアプリケーション・プログラミング・インターフェースが実行可能となるためのアプリケーション・プログラムを開発、使用、販売または配布もしくは転送する目的のためだけに、サンプル・プログラムを、IBM に対する別途料金を支払うことなく、複製、変更、配布または転送することができます。これらのサンプルは、すべての条件下で十分にテストを行っていません。したがって、IBM は、これらのプログラムの信頼性、実用性または機能について、いかなる保証も負いません。

サンプル・プログラムまたはその改変版の複製物には、全部複製か部分複製かを問わず、次の著作権表示を必ず行うものとします。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	IBM
AISPO	IMS
AIX	IMS/ESA
AIX/6000	LAN DistanceMVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	OS/2
BookManager	OS/390
CICS	OS/400
C Set++	PowerPC
C/370	QBIC
DATABASE 2	QMF
DataHub	RACF
DataJoiner	RISC System/6000
DataPropagator	RS/6000
DataRefresher	S/370
DB2	SP
DB2 Connect	SQL/DS
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	System/370
DB2 Universal Database	System/390
Distributed Relational Database Architecture	SystemView VisualAge
DRDA	VM/ESA
eNetwork	VSE/ESA
Extended Services	VTAM
FFST	WebExplorer
First Failure Support Technology	WIN-OS/2

次のものは、他社の商標または登録商標です。

Tivoli および NetView は、米国およびその他の国における Tivoli Systems Inc. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス、サーバーへの
 概要 23
 TCP/IP 23
アクセス、複数サーバーへの
 複数サーバーへのアクセス 23
アラート・センター 66
移行
 インスタンス 19
インスタンス
 命名上の制約 51
 Linux での作成 16
インストール
 クライアント 3
 サーバー 3
 CD-ROM の取り付け 10
 DB2 インストール 11
 DB2 インストールの使用 13
 Netscape ブラウザー 88
インフォメーション・センター 89
ウィザード
 索引 91
 タスクを遂行する 90
 データベース作成 91
 データベース追加 90, 91, 92
 データベース復元 92
 データベース・バックアップ 90
 パフォーマンス構成 91
 表作成 91
 表スペース作成 91
 複数サイト更新の構成 91
ウェアハウス・マネージャー
 概要 60

エンタープライズ拡張エディション
 概要 57
エンタープライズ・エディション
 概要 57
オンライン情報
 検索 93
 表示 88
オンライン・ヘルプ 85

[カ行]

開発者エディション
 概要 57
カタログ化
 データベース 29
 TCP/IP ノード 28, 29
カタログ・ノード名
 命名規則 49
管理、コントロール・センターを使ったデータベースの 63
管理、サーバー通信の
 概要 67
管理、接続の
 概要 23, 69
 クライアント構成アシスタントの使用 69
 コマンド行プロセッサの使用 23
管理サーバー
 概要 70
 Linux での作成 16
クライアント
 構成 23
グループ ID
 Linux での作成 15
計画
 DB2 構成 3
 DB2 コネクト構成 3
言語識別子
 ブック 83
検索
 オンライン情報 90, 93

構成
 TCP/IP 23
構成、クライアント通信の
 構成パラメーターの設定 23
 コマンド行プロセッサの使用 23
構成パラメーター
 DB2 の設定 45
 SYSADM_GROUP 45
構成パラメーターの設定
 構成パラメーターの設定 23
構成要素
 選択 38
 UNIX オペレーティング・システムでの 38
コマンド 19
 dasict 16
 db2icrt 16
 db2imigr 19
 db2licm 16
 db2rmln 17
コマンド行プロセッサ (CLP) の使用
 データベースのカタログ作成 29
コマンド・センター
 概要 63
 DB2 コマンドの入力 41
 SQL ステートメントの入力 41
コントロール・センター
 概要 63
 構成要素 63

[サ行]

最新情報 84
索引ウィザード 91
作成、インスタンス
 Linux での 16
作成、管理サーバー
 Linux での 16

- 作成、グループ ID
 - インスタンス所有者 15
 - 管理サーバー 15
 - 分離 UDF とストアード・プロセスジャー 15
- 作成、ユーザー ID
 - インスタンス所有者 15
 - 管理サーバー 15
 - 分離 UDF とストアード・プロセスジャー 15
- サテライト・エディション
 - 概要 56
- サンプル・データベースの作成
 - データベースへの接続 31
 - ノードのカatalog作成 28
- サンプル・プログラム
 - プラットフォーム共通の 83
 - HTML 83
- ジャーナル 66
- スクリプト・センター 65
- ストアード・プロセスジャー・ビルダー 66
- 制限
 - インスタンス名 51
- 製品
 - 概要 55
 - 構成要素 37
 - 説明 55
- 接続の検査
 - TCP/IP 23
- セットアップ、クライアント通信の
 - コマンド行プロセッサの使用 23
- セットアップ、文書サーバーの 92
- ソフトウェア要件
 - 通信プロトコル 4
 - DB2 クライアント 4
 - DB2 コネクト 4
 - DB2 ソフトウェア開発者キット 4
 - DB2 ユニバーサル・データベース 4

[タ行]

- ツール設定 66

- 通信
 - 管理 23
 - クライアントの構成 23
 - コントロール・センター 67
 - TCP/IP 23
- 通信の構成
 - 概要 23
- 通信プロトコル
 - 構成 23
 - APPC 4
 - IPX/SPX 4
 - NetBIOS 4
 - TCP/IP 4, 23
- データベース
 - 命名規則 49
- データベース管理ツール
 - 概要 63
 - コントロール・センター 63
- データベース作成ウィザード 91
- データベース追加ウィザード 90, 91, 92
- データベース別名
 - 命名規則 49
- データベース・オブジェクト
 - 命名規則 50
- データベース・バックアップ・ウィザード 90
- データ・リンク・マネージャー
 - 概要 62
- ディスク要件
 - クライアント 3
 - サーバー 3
- 特権
 - 必須 45

[ナ行]

- ノードロック・ファイル
 - Linux 16

[ハ行]

- パーソナル・エディション
 - 概要 56
- ハードウェア要件
 - ハード・ディスク 4

- ハード・ディスク
 - ハードウェア要件 3
- パスワード
 - 命名規則 53
- パフォーマンス構成ウィザード 91
- パフォーマンス・モニター
 - 使用 68
- パラメーター 45
 - SYSADM_GROUP 45
- 表作成ウィザード 91
- 表示
 - オンライン情報 88
- 表スペース作成ウィザード 91
- 復元ウィザード 92
- 複数サイト更新の構成ウィザード 91
- ブック 73, 85
- プロトコル
 - TCP/IP 23
- 分散コンピューティング環境
 - ソフトウェア要件 4
- ホスト・データベース
 - 概要 58

[マ行]

- 命名規則
 - 一般説明 49
 - インスタンス名 51
 - グループ 51
 - データベース 49
 - データベース別名 49
 - データベース・オブジェクト 50
 - パスワード 53
 - ユーザー ID 51
 - ユーザー名 51
- メモリー要件
 - クライアント 3
 - サーバー 3
 - 推奨 3
 - 推定 3

[ヤ行]

- ユーザー ID
 - Linux での作成 15

ユーザー名
命名規則 51

[ラ行]

ライセンス・キー
Linux での更新 16
ライセンス・ファイル
Linux での名前 17
リリース情報 84

[ワ行]

ワークグループ・エディション
概要 57
ワークステーション名 (nname)
命名規則 52

A

APPC
サポートされているプラットフォーム 4
ソフトウェア要件 4
SNA サーバー 4
SunLink SNA 4

D

DB2 Everywhere
概要 56
DB2 アプリケーション開発クライアント
概要 71
DB2 エンタープライズ拡張エディション
ディスク要件 3
DB2 エンタープライズ・エディション
メモリー要件 3
DB2 クライアント
概要 69
特権の変更 45
DB2 コネクト
概要 58
DB2 ユニバーサル・データベース
概要 63

DB2 ユニバーサル・データベース
(続き)
コントロール・センター 63
サポートされているプラットフォーム 63
ソフトウェア要件 4
DB2 パフォーマンス・モニター
68
Visual Explain 68
DB2 ライブラリー
印刷版のブックの注文 85
インフォメーション・センター
89
ウィザード 90
オンライン情報の検索 93
オンライン情報の表示 88
オンライン・ヘルプ 85
構成内容 73
最新情報 84
セットアップ、文書サーバーの
92
ブック 73
ブックの言語識別子 83
PDF 資料の印刷 85
DB2 ワークグループ・エディション
構成の計画 3
ディスク要件 3
メモリー要件 3
db2icrt コマンド 16
db2imigr コマンド
db2imigr コマンド 19
db2rmln コマンド 17
DB2SYSTEM
命名規則 52

H

HTML
サンプル・プログラム 83

I

Intelligent Miner
概要 61
IPX/SPX
接続の検査 31

L

LANG 環境変数 47
Linux
インスタンスの作成 16
作成、グループ ID 15
作成、ユーザー ID 15
分離 UDF とストアド・プロシ
ージャ ID の作成 15
ライセンス・キーの更新 16
ライセンス・ファイル名 17
RPM を使用したインストール
13

N

Net Search Extender
概要 62
NetBIOS
コード・セット 47
コード・ページ・サポート 47
Netscape ブラウザー
インストール 88

O

OLAP Server
概要 61

P

PDF 85
PDF 資料の印刷 85

R

Relational Connect
概要 60
RPM
DB2 (Linux 版) のインストール
13
rpm
Linux での選択 37

S

SmartGuides

ウィザード 90

Spatial Extender

概要 61

SQL

Visual Explain を使った表示 68

SYSADM

制御 45

SYSADM_GROUP パラメーター

SYSADM_GROUP パラメーター
45

T

TCP/IP

クライアント 23

クライアント - サーバーのセット
アップ 23

構成 23

ソケット衝突の回避 24

トラブルシューティング 24

Tivoli Enterprise

概要 62

V

Visual Explain

概要 68

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、時間をとって「問題判別の手引き」に定義されている処置を検討し、それらの提案を実行した後で、DB2 顧客サービスに連絡をとってください。この資料には、DB2 顧客サービスがお客さまを支援するために必要とする情報が説明されています。

製品情報

以下の情報は英語で提供されます。内容は英語版製品に関する情報です。

<http://www.ibm.com/software/data/>

DB2 World Wide Web ページには、ニュース、製品説明、研修スケジュールなどの DB2 に関する最新情報が提供されています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

「DB2 Product and Service Technical Library」では、よくされる質問 (FAQ)、修正内容、資料、および最新の DB2 技術情報などの情報へのアクセスが提供されています。

注: この情報のご提供は英語のみとなりますのでご注意ください。

<http://www.elink.ibm.com/pbl/pbl/>

「International Publications」注文用 Web サイトでは、マニュアルの注文方法についての情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/education/certify/>

IBM の「Professional Certification Program」Web サイトでは、DB2 を含むさまざまな IBM 製品の認証テストの情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<ftp://software.ibm.com>

匿名でログオンしてください。ディレクトリー /ps/products/db2 には、DB2 および多数の他製品に関連したデモ、修正プログラム、情報、およびツールがあります。ただし、提供されている情報は英語です。

comp.databases.ibm-db2, bit.listserv.db2-l

これらのインターネット・ニュースグループは、ユーザーが DB2 製品に関する自分の経験について話し合うために利用できます。ただし、提供されている情報は英語です。

CompuServe: GO IBMDB2

このコマンドを入力すると、IBM DB2 Family forum にアクセスできます。すべての DB2 製品が、このフォーラムでサポートされています。ただし、提供されている情報は英語です。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、*IBM Software Support Handbook* の Appendix A を参照してください。この資料にアクセスするには、Web ページ: <http://www.ibm.com/support/> にアクセスし、ページの最下部にある「IBM Software Support Handbook」リンク・ボタンを選択します。

注: 国によっては、IBM が承認している販売業者が、IBM サポート・センターの代わりにそれら販売業者のサポート・センターに連絡する場合があります。



部品番号: CT7YUJA

Printed in Japan

GC88-8538-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

CT7YUJA

